

社会情報学科専門科目（令和5年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	概要	開放
基礎 科目	40010		行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40020		情報社会論	②	30	1	後期	中川 恵		教養
	40031		ウェブデザイン入門	②	30	1	前期	伊豆田義人		
	40040		統計学入門	②	30	1	後期	()		教養
人間 社会と 心理	40110		社会学	2	30	1	前期	中川 恵	[日]と合同 前期開講（8～9月）	教養
	40120		社会ネットワーク論	2	30	1・2	集中	磯崎 匡		教養
	40135		地域社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
			社会調査演習	2	30	2	前期	中川 恵		
	40150		環境社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
	40170		社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40180		集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
			社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養	
		認知心理学	2	30	2	後期	石崎 毅			
経済と 経営 分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	後期	()	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	()		教養
			ファイナンス演習	2	30	2	後期	()		
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	貴田岡 信	連続2時限の受講をもって1回の 授業となる	教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	前期	高浜 快斗		教養
	40381		経営情報論（DX論）	2	30	1・2	後期	高浜 快斗		
	40392		経営管理論	2	30	1	後期	高浜 快斗		
		経営情報演習	2	30	2	前期	高浜 快斗			
メディア 表現と 情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40531		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
			メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40561		応用データ分析	2	30	1・2	後期	伊豆田義人		教養
	40571		情報コミュニケーション	2	30	1	後期	伊豆田義人		教養
	40581		データ分析入門	2	30	1・2	前期	伊豆田義人		教養
	40590		データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
			プログラミング1	2	30	2	前期	西川 友子		
			プログラミング2	2	30	2	後期	西川 友子		
40620		IT概論	2	30	1・2	前期	西川 友子		教養	
基礎 ゼミ	40710		基礎ゼミ一	2	30	1	後期	中川 恵		
	40720		基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
	40730		基礎ゼミ三	2	30	1	後期	高浜 快斗		
	40740		基礎ゼミ四	2	30	1	後期	()		
	40750		基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
	40760		基礎ゼミ六	2	30	1	後期	伊豆田義人		
	40770		基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
専門 ゼミ			専門ゼミ一	4	60	2	通年	中川 恵		
			専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
			専門ゼミ三	4	60	2	通年	高浜 快斗		
			専門ゼミ四	4	60	2	通年	()		
			専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
			専門ゼミ六	4	60	2	通年	伊豆田義人		
			専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
			専門ゼミ八	4	60	2	通年	石崎 毅		
			専門ゼミ九	4	60	2	通年	比留間浩介		
		卒業研究	②		2					

(注)・「○数字」は必修単位、「}○数字」は選択必修単位

社会情報学科専門科目（令和4年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	概要	開放
基礎 科目			行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
			情報社会論	②	30	1	後期	中川 恵		教養
			ウェブデザイン入門	②	30	1	前期	伊豆田義人		
			統計学入門	②	30	1	後期	鈴木 久美		教養
人間 社会と 心理	40120		社会学	2	30	1	前期	中川 恵	[日]と合同 前期開講（8~9月）	教養
			社会ネットワーク論	2	30	1・2	集中	磯崎 匡		教養
	40135		地域社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
	40140		社会調査演習	2	30	2	前期	中川 恵		
	40150		環境社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
			社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
			集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40190		社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養	
40210		認知心理学	2	30	2	後期	石崎 毅			
経済と 経営 分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	後期	()	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	()		教養
	40330		ファイナンス演習	2	30	2	後期	()		
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	貴田岡 信	連続2時限の受講をもって1回の 授業となる	教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	前期	高浜 快斗		教養
	40380		経営情報論	2	30	1・2	後期	高浜 快斗	「経営情報論(DX論)」で読替	
	40400		経営情報演習	2	30	2	前期	高浜 快斗		
メディア 表現と 情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同 本年度開講せず	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40531		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40540		メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40561		応用データ分析	2	30	1・2	後期	伊豆田義人		教養
			情報コミュニケーション	4	60	1・2	後期	伊豆田義人		教養
	40581		データ分析入門	2	30	1・2	前期	伊豆田義人		教養
			データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
	40613		プログラミング1	2	30	2	前期	西川 友子		
	40614		プログラミング2	2	30	2	後期	西川 友子		
40620		IT概論	2	30	1・2	前期	西川 友子		教養	
基礎 ゼミ			基礎ゼミ一	2	30	1	後期	中川 恵	開講せず	
			基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
			基礎ゼミ三	2	30	1	後期	高浜 快斗		
			基礎ゼミ四	2	30	1	後期	鈴木 久美		
			基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
			基礎ゼミ六	2	30	1	後期	—		
			基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
専門 ゼミ	40810		専門ゼミ一	4	60	2	通年	中川 恵	本年度開講せず	
	40820		専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
	40830		専門ゼミ三	4	60	2	通年	高浜 快斗		
			専門ゼミ四	4	60	2	通年	—		
	40850		専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
	40860		専門ゼミ六	4	60	2	通年	伊豆田義人		
	40870		専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
	40880		専門ゼミ八	4	60	2	通年	石崎 毅		
	40890		専門ゼミ九	4	60	2	通年	比留間浩介		
40910		卒業研究	②		2					

(注)・「○数字」は必修単位、「□○数字」は選択必修単位

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 行動科学の実証的研究法について理解する。 2. スタディスキル（大学での勉強の仕方）を身につける。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 行動科学とは何か</p> <p>第3回 条件付け</p> <p>第4回 文献を探そう</p> <p>第5回 レポートを書こう</p> <p>第6回 発表しよう</p> <p>第7回 ディスカッションをしよう</p> <p>第8回 実証的研究法を知ろう</p> <p>第9回 フィールドワークをしよう</p> <p>第10回 アンケートを書こう</p> <p>第11回 統計ソフトを使ってみよう（Rの使い方）</p> <p>第12回 統計ソフトを使ってみよう（Rで統計分析）</p> <p>第13回 実験をしよう（記憶の実験）</p> <p>第14回 実験をしよう（結果の分析と解釈）</p> <p>第15回 研究計画を書こう</p>
授業概要	行動科学の考え方、特にデータを集め、仮説を立て、分析するといった実証的研究法に焦点を当てて講義を行う。また、文献の探し方やレポートの書き方といった「スタディスキル（大学での勉強の仕方）」についても説明する。Teamsを使って課題を出すので、作業をしながら主体的に学んでほしい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	社会科学や心理学の分野で卒業研究をまとめた人、編入先の大学や会社などで実験、アンケート調査、商品テストなどに携わりたい人に、この科目は役立つと思います。なお、データの分析法についてさらに深く学びたい人は「統計学入門」「社会調査演習」「情報処理演習Ⅱ」などの科目も履修するといいでしょ。
評価方法	レポート・課題（70%）、授業への参加度（30%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	情報社会の基礎的な用語と考え方を社会学の視点から理解する。 自分の考えや経験を論理的な文章として叙述・説明する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（学習目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／【読解】新しい社会学のために）</p> <p>第2回 【読解】行為と共同性 親密性と公共性／相互行為と自己／社会秩序と権力／組織とネットワーク／メディアとコミュニケーション</p> <p>第3回 【読解】行為と共同性</p> <p>第4回 【レポート作成】行為と共同性</p> <p>第5回 【読解】時間・空間・近代 歴史と記憶／空間と時間／環境と技術／医療・福祉と自己決定／国家とグローバリゼーション</p> <p>第6回 【読解】時間・空間・近代</p> <p>第7回 【レポート作成】時間・空間・近代</p> <p>第8回 【レポート作成】時間・空間・近代</p> <p>第9回 【読解】差異と構造化 家族とライフコース／ジェンダーとセクシュアリティ／エスニシティと境界／格差と階層化／文化と再生産／社会運動と社会構想</p> <p>第10回 【読解】差異と構造化</p> <p>第11回 【レポート作成】差異と構造化</p> <p>第12回 【レポート作成】差異と構造化</p> <p>第13回 【レポート作成のヒント】論文の仕組み（パラグラフ）／論文の設計図（アウトライン）</p> <p>第14回 【レポート作成のヒント】論証の定石／反論の定石</p> <p>第15回 【レポート作成のヒント】文献や資料を調べる方法／フィールドワークをする方法</p>
授業概要	テキスト内容を理解し、課題を設定してレポートを作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例) 論題に沿ってレポートのアウトラインを作成する。
テキスト	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2007、『社会学』有斐閣（定価 3,850円） ISBN 978-4-641-05370-0
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題や質問Formsへの回答の提出によって、学修内容を深めます。 ・テキストのいくつかの章ごとにレポート課題の提出を課しますので、授業に際してはテキストの用意が必須です。購入方法については最初の授業で説明します。
評価方法	レポート課題：60%、各回講義への参加（コメントの提出）：40%
参考文献	・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8
備考	・授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。 ・課題のテーマは基本的に受講生の関心に沿って決定します。参考までにテキストにおいて提案されている例を示します。

	<p>例) あなたが相互行為において遂行している役割を挙げてみよう。役割に伴う役割期待と、役割期待に応じて行っているパフォーマンスを振り返ろう／最近見たアニメ・映画・マンガから、主人公が複数の役割に応じて印象操作をおこなっている例を説明しよう／自分の部屋の中にあるメディアを列挙してみよう。それぞれのメディアを用いて営んでいる相互行為を列挙しよう／はじめて家にテレビが来た日、そのころのテレビにまつわる思い出についてインタビューしてみよう／過去を振り返り歴史を作り出す営みについて、具体的な事例を挙げてみよう ほか</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	授業の目的は、（ア）ホームページの記述言語htmlの基本を学習すること、（イ）htmlによるホームページの作成方法を習得すること、（ウ）実践的にウェブデザインの基本を理解すること、（エ）タイピング能力を向上させることである。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス。授業システムの解説 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 ブラインドタッチの基本</p> <p>第3回 タイピングの訓練</p> <p>第4回 ウェブページの仕組み</p> <p>第5回 html5の基礎</p> <p>第6回 html5の基本的なタグ</p> <p>第7回 css3の基本的な事項</p> <p>第8回 html5とcss3との関係</p> <p>第9回 html5とcss3による制作</p> <p>第10回 ウェブページの基本的な構造の作成</p> <p>第11回 レイアウト作成の基本</p> <p>第12回 様々なレイアウトの作成</p> <p>第13回 ホームページの作成例</p> <p>第14回 サイトのひな形の作成</p> <p>第15回 期末課題(プロジェクト)の説明</p>
授業概要	授業でのタイピング訓練は最初の2回ほどのみで、それ以降は放課後等の時間に、与えられた長文を入力し、宿題として提出する。htmlおよびcssの学習においては、授業での解説ならびに実習課題のほか、理論・概念への理解を深めるための宿題が毎回出される。期末には問題解決能力の向上を目的とした制作プロジェクトが与えられる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、この科目では社会で求められている実践的なスキルの習得を目的としているため、この合計時間は最低時間数である。
テキスト	適宜プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学習範囲が広く、かつ課題が多いので、宿題の時間を確保しておいてください。特に、上記の「時間外学習」において、事後学習の時間の大部分はタイピング課題の作成にかけることになるので、事前経験の多少によりそれ以上の時間が必要です。
評価方法	<p>入力課題：52%。 ※未提出または未完成課題が一つ以上の場合、『入力課題=52点満点中0点』</p> <p>授業課題：16%。 期末課題：32%。</p> <p>減点の対象：</p> <p>(1) 公欠以外の欠席や無断退室等</p> <p>(2) 遅刻（出欠確認後）</p> <p>(3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動</p> <p>授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある</p>
参考文献	初回に紹介する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
未定			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日常的に触れるデータの特性を理解し、データから情報を読み取り判断できるようにする。 2. 簡単な統計分析ができるようにする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・統計学概説</p> <p>第2回 母集団と標本・社会調査</p> <p>第3回 記述統計①：度数分布表・ヒストグラム</p> <p>第4回 記述統計②：分布の中心をあらわす尺度</p> <p>第5回 記述統計③：分布の散らばりをあらわす尺度</p> <p>第6回 正規分布①：正規分布</p> <p>第7回 正規分布②：標準正規分布表の利用</p> <p>第8回 区間推定①：母分散が既知の場合の母平均の推定</p> <p>第9回 区間推定②：母分散が未知の場合の母平均の推定</p> <p>第10回 統計的仮説検定①：検定概要</p> <p>第11回 統計的仮説検定①：母分散が既知の場合の母平均に関する検定</p> <p>第12回 統計的仮説検定②：母分散が未知の場合の母平均に関する検定</p> <p>第13回 2種類のエラー</p> <p>第14回 散布図と相関係数</p> <p>第15回 総復習</p>
授業概要	<p>【遠隔授業】 Teamsにアップされた資料を利用して学習します。 学習方法に関しては、Teams→火曜4限：40040統計学入門→Class Notebook→コンテンツライブラリー→講義の説明→講義の説明に記載しますのでご確認ください。</p> <p>【対面授業】 講義を主体とし、学習した統計手法について適宜練習問題を解きます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>予習：授業前に前回までの確認（用語の確認・概念の定着）を行ってください。</p> <p>復習：授業で学習したことの確認・知識の定着を行ってください。場合によっては計算練習などが必要です。（数学が得意な方は復習の必要はないかもしれませんが、数学が苦手な方は毎回1時間～2時間程度）</p>
テキスト	鳥居泰彦（1994）『はじめての統計学』、日本経済新聞出版社（2,233円＋税） 初回授業までにさわらび（購買）に入荷をお願いしてあります。事前に受講者数がわからないため、例年を大きく上回る受講希望者があった場合は売切れる可能性があります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>初回の授業には必ず出席してください。</p> <p>限られた時間で多くのことを学ぶので復習が必須です。</p> <p>前回までの授業で行ったことを前提として進むので、理解していない（復習しない）と授業にまったくついていけなくなります。</p> <p>電卓（ルートの計算機能必須）を利用します。</p>
評価方法	<p>評価方法に関しては、第1回の講義またはTeams→火曜4限：40040統計学入門→Class Notebook→コンテンツライブラリー→講義の説明→講義の説明で説明しますが、概ね以下の通りです。</p> <p>【対面授業または1月が対面授業の場合】</p>

	<p>期末試験（100%）</p> <p>【全期間または1月が遠隔授業の場合】 遠隔期間により、配分が異なりますが、授業内課題・期末課題・レポート等で総合的に判断します。</p>
参考文献	<p>数学が苦手な人用：小島寛之（2006）『完全独習 統計学入門』，ダイヤモンド社. 編入試験or編入後に統計が必要な人用：東京大学教養学部統計学教室編（1991）『統計学入門』，東京大学出版会.</p>
備考	<p>※記載内容は、前年度の講義計画ですので参考程度にご覧ください。 ※本科目における講義計画は、担当教員が決定し次第更新しますので、学務システムからご確認ください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と考え方を理解する。 自分の考えや経験を論理的な文章として叙述・説明する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス (学習目標と方針の共有/Teamsの基本動作確認/【読解】新しい社会学のために)</p> <p>第2回 【読解】行為と共同性 親密性と公共性/相互行為と自己/社会秩序と権力/組織とネットワーク/メディアとコミュニケーション</p> <p>第3回 【読解】行為と共同性</p> <p>第4回 【レポート作成】行為と共同性</p> <p>第5回 【読解】時間・空間・近代 歴史と記憶/空間と時間/環境と技術/医療・福祉と自己決定/国家とグローバリゼーション</p> <p>第6回 【読解】時間・空間・近代</p> <p>第7回 【レポート作成】時間・空間・近代</p> <p>第8回 【レポート作成】時間・空間・近代</p> <p>第9回 【読解】差異と構造化 家族とライフコース/ジェンダーとセクシュアリティ/エスニシティと境界/格差と階層化/文化と再生産/社会運動と社会構想</p> <p>第10回 【読解】差異と構造化</p> <p>第11回 【レポート作成】差異と構造化</p> <p>第12回 【レポート作成】差異と構造化</p> <p>第13回 【レポート作成のヒント】論文の仕組み(パラグラフ)/論文の設計図(アウトライン)</p> <p>第14回 【レポート作成のヒント】論証の定石/反論の定石</p> <p>第15回 【レポート作成のヒント】文献や資料を調べる方法/フィールドワークをする方法</p>
授業概要	テキスト内容を理解し、課題を設定してレポートを作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例) 論題に沿ってレポートのアウトラインを作成する。
テキスト	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2007、『社会学』有斐閣(定価 3,850円) ISBN 978-4-641-05370-0
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> ・本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題や質問Formsへの回答の提出によって、学修内容を深めます。 ・テキストのいくつかの章ごとにレポート課題の提出を課しますので、授業に際してはテキストの用意が必須です。購入方法については最初の授業で説明します。
評価方法	レポート課題：60%、各回講義への参加(コメントの提出)：40%
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ(定価 1,980円) ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書(定価968円) ISBN 978-4-004-31853-8
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。 ・課題のテーマは基本的に受講生の関心に沿って決定します。参考までにテキストにおいて提案されている例を示します。

	<p>例) 公共空間で人々がどのような空間的位置を占めているか観察しよう／国内外の政治指導者の自伝、評伝、歴史小説などを読んでリーダーシップについて考察しよう／短大を中心としてメンタル・マップを書こう。あとで受講生同士で見比べて違いや違いが生まれる理由について話し合おう／1週間に接するメディア情報の中に健康に関するものがどれくらいあるか確認しよう。独特の言い回し、説得技法があるだろうか／あなたが経験した意見の違いやもめごとを例にして、自己決定とパターナリズムの論点を考察しよう ほか</p>

講義科目名称：社会ネットワーク論（40120）

授業コード：40120

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
磯崎 匡			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本の社会構造をネットワークに焦点を当て、分析考察することができる。		
授業計画	第1回	ネットワークとはなにか？	
	第2回	ネットワーク理論	
	第3回	ネットワークの歴史（1）前近代まで	
	第4回	ネットワークの歴史（1）近代以降	
	第5回	レポート作成	
	第6回	人間関係とネットワーク（1）友達関係から考える	
	第7回	人間関係とネットワーク（2）身近なネットワークとしてのSNS	
	第8回	人間関係とネットワーク（3）ソーシャルキャピタル	
	第9回	メディアとネットワーク	
	第10回	レポート作成	
	第11回	教育とネットワーク	
	第12回	産業とネットワーク	
	第13回	地域とネットワーク	
	第14回	災害とネットワーク	
	第15回	レポート作成	
授業概要	日本の社会構造をネットワークに着目し議論して、そのありようを描き出す。前半では理論や学説を歴史的に振り返り、後半では各論的に様々なテーマで議論する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	様々なネットワークについて常にアンテナを張るように、日々のニュースや新聞を見聞きし、自分の問題意識を醸成する。		
テキスト	指定テキストはなし。毎時間資料を配付する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業では、出欠確認の代わりに毎日小レポートを課す。成績はその小レポートと別途指定する最終レポートを合算して評価する。		
評価方法	小レポート40%、最終レポート60%		
参考文献	授業中適宜指定する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	地域社会学の基礎的な用語と考え方を理解する。 自分の考えや経験を論理的な文章として叙述・説明する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／【読解】はじめに）</p> <p>第2回 【読解】地域社会学の必要性 地域社会学の必要性を考えるための準備／「狭義の社会」と集団 ほか</p> <p>第3回 【調べ学習】地域社会学の必要性</p> <p>第4回 【読解】現代農山村の社会分析 地域社会には都市と農村がある，過疎農山村の現在 ほか</p> <p>第5回 【読解】現代農山村の社会分析 環境と農的世界／福祉と子育て／コミュニティリサーチと集落点検 ほか</p> <p>第6回 【調べ学習】現代農山村の社会分析</p> <p>第7回 【読解】伝統農村の変容と継承 「家・村」論のあゆみと現在 ほか</p> <p>第8回 【読解】伝統農村の変容と継承 生活環境主義とコモンズ／暮らしと生業・小農／むらと女性 ほか</p> <p>第9回 【調べ学習】伝統農村の変容と継承</p> <p>第10回 【読解】都市的世界の展開 シカゴ学派と民族関係論の現在 ほか</p> <p>第11回 【読解】都市的世界の展開 エスニシティとセクシュアリティ／排除と貧困／沖縄の都市的生活様式とそのルーツ ほか</p> <p>第12回 【調べ学習】都市的世界の展開</p> <p>第13回 【調べ学習のヒント】議論の日本語／議論の論理</p> <p>第14回 【調べ学習のヒント】文章や資料を調べる／フィールドワークをする</p> <p>第15回 【調べ学習のヒント】データ整理からアウトプットへ</p>
授業概要	テキスト内容を理解し、課題を設定してレポートを作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について意見交換するので、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例) 関連するテーマからさらに関心をもった事柄について「調べ学習のテーマ」として提案できるように準備する。 例) 講義内に決めたテーマに沿って情報収集し、レポートを作成する。
テキスト	山本努編、2022、『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房（定価：3,080円） ISBN:978-4-6230-9353-3 テキストのいくつかの章ごとにレポート課題の提出を課しますので、授業に際してはテキストの用意が必須です。購入方法については最初の授業で説明します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	
評価方法	レポート課題（調べ学習の実施内容）：60%、各回講義への参加（コメントの提出）：40% ・本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題や質問Formsへの回答の提出によって、学修内容を深めます。
参考文献	・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8

備考	<ul style="list-style-type: none">・授業計画に示したテーマは進度や受講生の関心によって若干変更になることがあります・課題のテーマは基本的に受講生の関心に沿って話し合ってから決定します。参考までに過年度実施した課題を示します。 例) あなたのゆかりの地方自治体における公共施設管理計画を発見せよ／社会の具体例を考察して定義の理解を深めよ／「集落」イメージを整理せよ／育児休暇取得率は何と最も関連が深いか、仮説を立てて検証せよほか

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	社会調査の基礎的知識を基に、課題に応じた社会調査を企画する。		
授業計画	第1回	ガイダンス（講義方針の共有／調査技術 調べるといふこと／調査課題と方法の検討） この科目では次の2つのどちらかを選択することを想定しています。 (1) 文献調査：任意の研究課題について先行する研究・知見の資料を検索しレポートを作成する。 (2)（限定的な）質問紙調査：Office365の”Forms”を使ってこの科目の受講生へのアンケートを実施し、その結果を使ってレポートを作成する。	
	第2回	調査技術（文献や資料を調べる） ・調査課題の回答を踏まえて、調査方法を面談によって確定します	
	第3回	調査技術（フィールドワークをする） ・調査課題の回答を踏まえて、調査方法を面談によって確定します	
	第4回	調査技術（例 リスクを調べる） ・調査課題の回答を踏まえて、調査方法を面談によって確定します	
	第5回	調査技術（データ整理からアウトプットへ） ・調査課題の回答を踏まえて、調査方法を面談によって確定します	
	第6回	進捗報告－(1) 文献調査 ・1本目のレポート提出	
	第7回	進捗報告－(2) Forms調査 ・質問票（暫定版）の提出	
	第8回	論理的文章（日本語と論理—伝えるためのマナー） ・各自の進捗に合わせて個別に面談します	
	第9回	論理的文章（議論の日本語—論文をめざして） ・各自の進捗に合わせて個別に面談します	
	第10回	論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論） ・各自の進捗に合わせて個別に面談します	
	第11回	進捗報告－(1) 文献調査 ・2本目のレポート提出	
	第12回	論理的文章（論証構成の記号化—ツールとしての記号論理） ・各自の進捗に合わせて個別に面談します	
	第13回	進捗報告－(2) Forms調査 ・調査の実施結果を基にしたレポートのアウトライン提出	
	第14回	進捗報告－(2) Forms調査 ・レポートの結論・論理構成の検討	
	第15回	進捗報告－(1) 文献調査 ・3本目のレポート提出	
授業概要	レポート作成に必要な知識の習得をおこないます。 この科目では次の2つのどちらかを選択することを想定しています。 (1) 文献調査：任意の研究課題について先行する研究・知見の資料を検索し、レポートを作成する。 (2)（限定的な）質問紙調査：Office365の”Forms”を使ってこの科目の受講生へのアンケートを実施し、その結果を使ってレポートを作成する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	・テーマ選びのための資料検索、資料読解、レポートの執筆・推敲は時間外学習として各自すすめてください ・講義時間の進捗報告ではテーマの絞り込み、レポートへのコメントをおこないます。		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）			
評価方法	期末レポート（60%）、進捗報告（40%）		
参考文献	・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8		
備考	・調査のテーマは受講生自身が決定します。これまで調べたことのあるテーマの再利用、卒業研究で扱う内容との重複があっても構いません。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
開放（教養）	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	環境社会学の基礎的な用語と考え方を理解する。 自分の考えや経験を論理的な文章として叙述・説明する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／【読解】はしがき、環境社会学の課題と視点）</p> <p>第2回 【読解】環境問題の初段階／公害の原点としての水俣病</p> <p>第3回 【読解】新幹線公害問題－日本とフランスの比較／廃棄物問題を考える</p> <p>第4回 【調べ学習】環境問題・環境紛争</p> <p>第5回 【読解】自然環境と社会の相互作用／農山村と環境問題－有機農業を中心として</p> <p>第6回 【読解】コモンズ－自然環境と担い手／発展途上国と環境問題</p> <p>第7回 【調べ学習】環境共存</p> <p>第8回 【読解】社会的ジレンマ／環境負荷の外部転嫁と社会的ジレンマの諸類型</p> <p>第9回 【読解】環境制御システム論</p> <p>第10回 【調べ学習】環境理論</p> <p>第11回 【読解】自然エネルギーと市域振興／環境基本条例と環境基本計画－自治体総合的環境行政の推進／環境問題の解決のために</p> <p>第12回 【調べ学習】解決策－制度・非制度－</p> <p>第13回 【調べ学習のヒント】議論の日本語／議論の論理</p> <p>第14回 【調べ学習のヒント】文章や資料を調べる／フィールドワークをする</p> <p>第15回 【調べ学習のヒント】データ整理からアウトプットへ</p>
授業概要	テキスト内容を理解し、課題を設定してレポートを作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について意見交換するので、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例) 関連するテーマからさらに関心をもった事柄について「調べ学習のテーマ」として提案できるように準備する。 例) 講義内に決めたテーマに沿って情報収集し、レポートを作成する。
テキスト	船橋晴俊、2011、『環境社会学』弘文堂（定価：2,970円） ISBN:978-4-335-55143-7 ・テキストのいくつかの章ごとにレポート課題の提出を課しますので、授業に際してはテキストの用意が必須です。購入方法については最初の授業で説明します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	
評価方法	レポート課題（調べ学習の実施内容）：60%、各回講義への参加（コメントの提出）：40% ・本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題や質問Formsへの回答の提出によって、学修内容を深めます。

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画に示したテーマは進度や受講生の関心によって若干変更になることがあります。 ・課題のテーマは基本的に受講生の関心に沿って話し合っ決定します。参考までに過年度実施した課題を示します。 <p>例) 国内の環境保全もしくは環境破壊の事例を紹介せよ／野生動物と人間のあいだの諸問題にジレンマがあるかを考察せよ—野生生物の保護、鳥獣被害—／短大生の食行動実態を調査せよ—嫌いな食べ物は？朝ごはんは何を食べた？—／プラスチックごみを取り巻く新法と効果を調査せよ／広義のNPO団体の活動内容と収支状況を調査せよ／「文化の保存・継承=創造」について考察せよ ほか</p>

講義科目名称：社会心理学（40170）

授業コード：40170

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	印象形成	
	第3回	帰属	
	第4回	推論と問題解決	
	第5回	自己	
	第6回	性格と社会的性格（性格）	
	第7回	性格と社会的性格（社会的性格）	
	第8回	態度（態度の一貫性）	
	第9回	態度（認知的不協和）	
	第10回	説得（精査可能性モデル）	
	第11回	説得（効果的な説得とは）	
	第12回	ノンバーバル・コミュニケーション	
	第13回	同調（古典的研究と服従の心理）	
	第14回	同調（どんな時に同調するか）	
	第15回	役割	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、社会的認知、対人関係、集団内行動といった、主に個人の内部や対人間で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「心理学的」社会心理学の側面が強い内容となっている。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	映像を見たり、アンケートやクイズなどの内容が多い授業になっているので、履修者の皆さんも挙手などで参加してください。なお、後期の「集合行動論」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。		
評価方法	レポート・課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：集合行動論（40180）

授業コード：40180

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	利他主義（援助行動）	
	第3回	リーダーシップと集団思考（リーダーシップの理論）	
	第4回	リーダーシップと集団思考（集団成極化現象）	
	第5回	映像でみる集団思考（前編）	
	第6回	映像でみる集団思考（後編）	
	第7回	集団間差別と偏見（集団間葛藤）	
	第8回	集団間差別と偏見（社会的アイデンティティ理論）	
	第9回	交換理論	
	第10回	ゲーム理論と社会的ジレンマ	
	第11回	群集とパニック	
	第12回	流言とデマ	
	第13回	世論とマスコミ	
	第14回	文化	
	第15回	異文化間コミュニケーション	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、集団間行動、集合行動、文化といった、主に集団間や組織されない集団、社会で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「社会学的」社会心理学の側面が強い内容となっている。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	映像を見たり、アンケートやクイズなどの内容が多い授業になっているので、履修者の皆さんも挙手などで参加してください。なお、前期の「社会心理学」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。		
評価方法	レポート・課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	カウンセリング体験を通して、自己理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	SGEとは	
	第3回	SGEエクササイズを紹介	
	第4回	グループ分け・SGEエクササイズ選び	
	第5回	SGEエクササイズのリメイク	
	第6回	SGE体験	
	第7回	SGE体験	
	第8回	SGE体験	
	第9回	SGE体験	
	第10回	SGE体験	
	第11回	SGE体験	
	第12回	SGE体験	
	第13回	SGE体験	
	第14回	SGE体験	
	第15回	ふりかえり	
授業概要	SGE（構成的グループエンカウンター）について概観した後、SGE体験を通して理解を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	なし。レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>カウンセリングに興味のある学生、ピアヘルパー、ピアヘルパーの資格を取得したい学生を歓迎します。毎回出席を取りますので、できるだけ休まないようにしてください。就職活動や教育実習などで休む場合は事前に連絡してください。</p> <p>今年度も、新型コロナウイルス流行下でも実施可能な内容にSGEエクササイズをリメイクしながら進めていきたいと思っております。学生の皆さんも知恵を貸してください。</p>		
評価方法	授業への参加度（70%）、課題（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：政治心理学（40200）

授業コード：40200

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	政治学や政治心理学の知見を用いて、政治現象についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	民主主義（これまでの変遷）	
	第3回	民主主義（今日の課題）	
	第4回	イデオロギー（これまでの価値観）	
	第5回	イデオロギー（新しい価値観）	
	第6回	政党支持と選挙（政党支持の種類）	
	第7回	政党支持と選挙（選挙の理論）	
	第8回	政策決定ゲームをしよう（準備編）	
	第9回	政策決定ゲームをしよう（本番編）	
	第10回	政策決定ゲームをしよう（ふりかえり編）	
	第11回	政治的パーソナリティ	
	第12回	政治的社会化	
	第13回	テロリズム	
	第14回	映像でみる政治心理学（前編）	
	第15回	映像でみる政治心理学（後編）	
授業概要	政治過程や政治現象の心理的側面に関するトピックを取り上げて講義する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、政治学を学んだことのない学生向けに、政治学、政治過程論、政治心理学などに関するトピックを取り上げます。自治体の政策決定ゲームをしたり、映像を見る機会を設けてあるので、履修される方はぜひ主体的に取り組んでみてください。なお「社会心理学」「集合行動論」「国際関係論」といった科目も履修すると、より理解が深まると思います。		
評価方法	レポート・課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 認知心理学への理解を深める。</p> <p>到達目標 認知心理学の基本用語（キーワード）の意味の概要を説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（認知心理学とはどのような学問か）</p> <p>第2回 記憶の精緻化リハーサル（効果的な記憶方略とは）</p> <p>第3回 記憶と再生（記憶はどのように保存されているのか）</p> <p>第4回 知識の構造（人はどのようにして認知しているのか）</p> <p>第5回 文章理解の認知過程（読んで理解するということはどういうことか）</p> <p>第6回 言語の外在的意味と内在的意味（発した言葉は相手にどのように伝わっているのか）</p> <p>第7回 第1回から第6回までのまとめ</p> <p>第8回 問題解決の過程（人はどのような思考過程を経て問題に挑んでいるのか）</p> <p>第9回 類推的な考え方（問題解決には欠かせない3つの思考方略がある①）</p> <p>第10回 演繹的な考え方（問題解決には欠かせない3つの思考方略がある②）</p> <p>第11回 帰納的な考え方（問題解決には欠かせない3つの思考方略がある③）</p> <p>第12回 原因帰属（適切に原因を探索するには）</p> <p>第13回 メタ認知（高度な認知とは何か）</p> <p>第14回 認知主義的学習（認知心理学の視点をふまえた学習とは）</p> <p>第15回 総まとめ</p>
授業概要	各授業ごとに、導入で内容理解に必要なキーワードを明確にします。さらに、展開でキーワードをふまえて解説を行い、終末でキーワードについて自分の言葉でまとめる時間を設定するようにします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	レポートを課すことがあります。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	認知心理学は脳がどのように働いて人間の行動を決定しているのかを考察する学問でありコンピュータの発展を支えるように深化してきました。全15回の講義を通して少しずつ考えを積み重ねて、自分なりに気づくことを見つけ、認知心理学への理解を深めてほしいと思います。
評価方法	授業・ワークシート・提出課題（関心意欲態度・思考）70% レポート（知識定着・思考）30%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
未定			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日常生活とミクロ経済学、マクロ経済学の概念の融合を目的とします。 新聞やテレビの経済ニュースを経済理論で説明できるようになることを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス シラバス内容に関して詳しく説明します。 受講の際の注意について説明します。 対面授業～遠隔授業をいくつかの段階にわけて進め方について説明します。</p> <p>第2回 市場・需要・需要曲線</p> <p>第3回 需要曲線のシフト・消費者余剰・供給・供給曲線</p> <p>第4回 供給曲線・供給曲線のシフト・生産者余剰</p> <p>第5回 市場均衡・均衡の変化</p> <p>第6回 確認課題(1)・確認課題(1)の解答</p> <p>第7回 国際貿易</p> <p>第8回 GDP①：定義など</p> <p>第9回 GDP②：名目と実質・経済成長率</p> <p>第10回 国民所得の決定①：民間消費・投資・政府支出</p> <p>第11回 国民所得の決定②：均衡国民所得</p> <p>第12回 財政乗数・租税乗数</p> <p>第13回 開放経済</p> <p>第14回 確認課題(2)・確認課題(2)の解答</p> <p>第15回 総まとめ</p>
授業概要	講義形式を主体とします。テーマごとに講義を受けた後、確認のために授業内課題を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：必要ありません。 復習：学習した概念を次回の講義で利用するので知識の定着をはかってください（必要時間：各自の理解度によるがおよそ30分～1時間程度）。
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学は、積み上げていくタイプの科目なので毎回の講義をきちんと理解しないと次回の講義が理解できなくなる可能性があります。そのため、復習を厭わない方にお勧めします。 数学を利用します。
評価方法	【対面授業の場合】 期末テスト（80%）＋授業内課題（10%×2回） 【遠隔授業の場合】 授業課題、授業参加度（発言やノートなど）、期末課題などで総合的に判断します。評価割合は遠隔授業期間によるため、第1回の授業で説明します。
参考文献	マンキュー『マンキュー 入門経済学』東洋経済新報社（3,200円＋税）
備考	※記載内容は、前年度の講義計画ですので参考程度にご覧ください。 ※本科目における講義計画は、担当教員が決定し次第更新しますので、学務システムからご確認ください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
未定			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	将来価値・割引現在価値を利用した住宅ローンや年金等の計算ができるようになること・ポートフォリオの基礎を理解し、株価を計算できるようになることを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 利子率・単利と複利</p> <p>第3回 将来価値と現在価値</p> <p>第4回 投資先の選択</p> <p>第5回 アニュイティ（住宅ローン）・確認課題①</p> <p>第6回 確認課題①の解答・通貨が異なる場合（外国為替）の将来価値と現在価値</p> <p>第7回 実質金利・インフレーションがある場合の将来価値と現在価値</p> <p>第8回 株取引ゲームのルール説明・戦略および戦術レポート レポートには意見交換も含まれます。</p> <p>第9回 株取引ゲーム・期待値</p> <p>第10回 分析レポート・株価の算定 レポートには意見交換も含まれます。</p> <p>第11回 リスクの算定</p> <p>第12回 ポートフォリオ（安全資産と危険資産）</p> <p>第13回 ポートフォリオの収益率とリスク</p> <p>第14回 ポートフォリオの投資機会軌跡（トレードオフ線）・確認課題②</p> <p>第15回 確認課題②の解説・まとめ</p>
授業概要	<p>【遠隔授業】 講義は、資料およびTeamsを利用して行われます。</p> <p>【対面授業】 講義は、座学および経済学ゲーム（株取引）を利用した学習（アクティブラーニング）により構成されます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>予習：必要ありません。</p> <p>復習：講義で学習した知識の定着のため30分～1時間程度（個人の理解度による）。</p>
テキスト	必要になった場合、講義内で指定します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	将来設計を考えるうえで金銭の計算を抜きにすることはできません。楽しい老後のため、今から勉強しておきましょう。残念ながら、数学を利用します。
評価方法	<p>【全期間対面授業の場合】 期末試験60％、授業内課題2回（10％×2回）、株取引ゲーム（10％）およびそれに関する意見交換とレポート2回（5％×2回）</p> <p>【一部または全部遠隔授業の場合】 授業内課題・期末課題・株取引ゲーム・レポート等で総合的に判断します。詳しい内訳は遠隔期間によって異なるので、第1回の授業で場合分けして説明いたします。</p>
参考文献	ソヴォイ（2011）『現代ファイナンス論（第二版）』ピアソン
備考	<p>※記載内容は、前年度の講義計画ですので参考程度にご覧ください。</p> <p>※本科目における講義計画は、担当教員が決定し次第更新しますので、学務システムからご確認ください。</p>

講義科目名称：ファイナンス演習（40330）

授業コード：40330

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
未定			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ファイナンス論で学習したトピックを実際の生活（投資）に応用できるようにすることを目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス シラバス内容の詳しい説明をします。 特に授業の進め方など説明するので必ず確認してください。	
	第2回	金融市場（資本市場）	
	第3回	株式と債券	
	第4回	チャートの読み方	
	第5回	四季報の読み方①：四季報とは	
	第6回	四季報の読み方②：材料記事・ROE・ROAなど	
	第7回	四季報の読み方③：財務状況・資本構成など	
	第8回	四季報の読み方④：株式分割など	
	第9回	日経平均・東証TOPIXなど	
	第10回	景気と投資先①：景気下降局面	
	第11回	景気と投資先②：景気上昇局面	
	第12回	投資結果報告	
	第13回	投資結果分析①	
	第14回	投資結果分析②	
	第15回	まとめ	
授業概要	ファイナンス論で学んだポートフォリオ理論の応用を講義前半で講義し、それを利用したコンピュータ演習（投資）を講義後半に行います。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	株式取引に必要な時間（デイトレーディングをする人は毎日30分以上、長期保有をする人は週1回10分程度）。 株価に変動を与える要因についての知識吸収のため、ニュースや新聞を見るのに必要な時間。		
テキスト	必要に応じて授業内で紹介します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ファイナンス論でのポートフォリオの収益率とリスクの関係について理解できていることを前提に講義を行います。 数学の予備知識があると講義の理解が容易になります。		
評価方法	最終的な投資結果（演習の成果）（100%）		
参考文献			
備考	※記載内容は、前年度の講義計画ですので参考程度にご覧ください。 ※本科目における講義計画は、担当教員が決定し次第更新しますので、学務システムからご確認ください。		

講義科目名称：簿記会計演習（40340）

授業コード：40340

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	4	選択必修
担当教員			
貴田岡 信			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	企業活動を記録する複式簿記の初歩を学びます。簿記の学習を通じて、企業活動の仕組みを知るとともに、検定試験である日商簿記3級受検の基礎固めを行います。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 貸借対照表と損益計算書</p> <p>第2回 勘定の構造と記入</p> <p>第3回 仕訳と元帳への転記</p> <p>第4回 試算表と精算表</p> <p>第5回 簿記一巡と決算</p> <p>第6回 現金・預金の記帳</p> <p>第7回 商品売買の記帳</p> <p>第8回 債権債務、手形取引の記帳</p> <p>第9回 固定資産の記帳</p> <p>第10回 株式会社の資本、税金</p> <p>第11回 収益・費用の期末修正</p> <p>第12回 決算整理の処理</p> <p>第13回 8桁精算表の作成</p> <p>第14回 財務諸表の作成</p> <p>第15回 伝票会計</p>
授業概要	基本的な概念や処理方法について最初に解説を行い、時間内に問題演習と小テストを実施します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で学んだ内容を週に2回（1回2時間）程度復習を行うこと。
テキスト	必須問題集 『検定簿記ワークブック 3級商業簿記』 中央経済社 800円（税別）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義の位置付け上、簿記の初学者を対象とした授業を行います。高校時代に簿記を学んできた場合であっても新しい発見があるような授業を目指します。
評価方法	期末試験の成績80% 毎回の小テスト20%
参考文献	適宜紹介します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 電子商取引（EC），電子マネー，消費者としてECの効果的な活用方法とトラブル防止策を学んで，ECの基本教養を身につけてもらう。 2. 事業者の視点から電子商店の開店方法と運営の基本知識を理解する。 3. 電子商取引関連の法律に関する基本知識を勉強する。
授業計画	<p>第1回 商取引と電子商取引</p> <p>第2回 電子商取引の特徴とその影, インターネットビジネス</p> <p>第3回 電子決済と具体的な決済方法</p> <p>第4回 電子マネー，キャッシュレス決済とFinTech（フィンテック）</p> <p>第5回 電子商取引に関連する法律と行政規制</p> <p>第6回 契約に関する基本知識と消費者契約法</p> <p>第7回 ネット物販業の基本とビジネスモデル</p> <p>第8回 情報提供仲介事業と関連ビジネスモデル</p> <p>第9回 コンテンツ販売事業，金融業における電子商取引</p> <p>第10回 電子商店の始め方，ネットオークションとネットフリマの活用</p> <p>第11回 電子ショッピングモールへの出店方法と独立型ネットショップの構築</p> <p>第12回 電子商店運営の基本知識と基本運営指標</p> <p>第13回 電子商店のマーケティング</p> <p>第14回 EC関連の最新話題（レポート）</p> <p>第15回 総合演習（レポート）</p>
授業概要	消費者と事業者の視点から電子商取引（EC）の基本知識，基本技術および効果的な活用方法などを取り上げて講義する。インターネットの関連情報を活用し，様々な問題の答えを探求することも重視する。
実務経験及び授業の内容	担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発と電子商取引の導入に参加し，これらの実務経験を生かして，実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられるテーマについて，インターネットから関連の情報を調べたうえ，自分の見方・考え方を整理すること。また，専門用語が多いため，授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて，より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。
評価方法	毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。
参考文献	1. 丸山正博：「電子商取引の進展—ネット通販とeビジネス」，八千代出版（2011）。 2. 竹内謙礼：「成功者しか知らない ネットショップ運営 儲かる秘訣が2時間でわかる本」，双葉社（2004）。 3. 二木紘三：「Eコマースのしくみ」，日本文芸社（2000）。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 一般利用者としての必要最低限な情報セキュリティ知識を身につけてもらう。 2. ネットワークにおける各種の危険性と脅威を理解のうえ、基本的な対策を習得する。 3. 情報セキュリティ関連の法律に関する基本知識を勉強する。
授業計画	<p>第1回 インターネットとその危険性</p> <p>第2回 情報セキュリティの定義：機密性、完全性、可用性とその他の特性</p> <p>第3回 盗聴の脅威とその対策、暗号化技術の基本知識</p> <p>第4回 侵入・なりすましの脅威と対策</p> <p>第5回 改ざん・破壊の脅威と対策</p> <p>第6回 マルウェア・ウィルスの脅威：基本知識、感染兆候と経路</p> <p>第7回 マルウェア・ウィルス感染防止と駆除対策</p> <p>第8回 情報セキュリティ関連法律のしくみと著作権法</p> <p>第9回 知的財産権と特許法・商標法、個人情報保護法</p> <p>第10回 コンピュータ犯罪防止法、不正アクセス禁止法と不当競争防止法</p> <p>第11回 クラウドサービスとセキュリティ</p> <p>第12回 SNSとSNSのプライバシー・セキュリティ問題</p> <p>第13回 スマートフォンのセキュリティ</p> <p>第14回 情報セキュリティの最新話題</p> <p>第15回 総合演習とレポート</p>
授業概要	情報の盗聴、侵入、破壊とマルウェア・ウィルス感染などの様々な脅威から身を守るための基本知識、基本対策について講義する。インターネットの情報を活用して問題を解決する能力の養成も重視する。
実務経験及び授業の内容	担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発とWebサーバーの設置・運営を担当し、これらの実務経験を生かして、実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられるテーマについて、インターネットから関連の情報を調べたうえ、自分の見方・考え方を整理すること。また、専門用語が多いため、授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて、より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。
評価方法	毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。
参考文献	1. 中村行宏：「情報セキュリティの基礎知識」，技術評論社(2017)。 2. 情報処理推進機構：「情報セキュリティ読本 五訂版：IT時代の危機管理入門」，実教出版(2018)。 3. 岩井博樹：「動かして学ぶセキュリティ入門講座」，SBクリエイティブ(2017)。
備考	

講義科目名称：経営学入門(40370)

授業コード：40370

英文科目名称：Introduction of Business Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>私たちが日常生活を営む上で、企業という存在は大きな役割を果たしている。その企業について理解を深めるために求められる基礎的な知識や能力を身に付けることが本講義のテーマである。すなわち、本講義は経営学の初学者に向けた導入科目として位置付けられる。</p> <p>経営学の基礎的な概念について学修することにより、1. 経営学や実社会で用いられる用語や理論について理解して説明することができる、2. 学修した用語や理論を用いて実社会の企業活動について理解して説明することができる、3. 実社会の企業活動について理解した上で自分自身の初期的なキャリアデザインを描くことができる、という能力を身に付けることが本講義における到達目標である。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：企業という概念と存在</p> <p>第2回 経営学の全体像：学説史に基づいた学問領域の俯瞰</p> <p>第3回 企業と社会：株式会社におけるカネと会社機関</p> <p>第4回 企業とインプット市場との関わり：金融資本市場や労働市場との関わり</p> <p>第5回 企業とアウトプット市場との関わり：製品・サービス市場との関わり</p> <p>第6回 競争戦略のマネジメント(Part. 1)：「選ばれる」を創り上げるプロセス</p> <p>第7回 競争戦略のマネジメント(Part. 2)：違いを創るジェネリック戦略の枠組み</p> <p>第8回 多角化戦略のマネジメント：多角化、M&A、戦略的提携の基本的な考え方</p> <p>第9回 国際化のマネジメント：企業活動の地理的な拡がり</p> <p>第10回 マクロ組織のマネジメント：組織構造のバリエーションとブレイクスルーを生み出す仕組み</p> <p>第11回 ミクロ組織のマネジメント：組織と個人間におけるモチベーション論的な枠組み</p> <p>第12回 キャリアデザイン：能力形成および人生とキャリアのデザイン</p> <p>第13回 経営学の汎用性と多様性(Part. 1)：ファミリービジネスのマネジメント</p> <p>第14回 経営学の汎用性と多様性(Part. 2)：非営利組織のマネジメント</p> <p>第15回 総括</p>
授業概要	Microsoft社のPowerPointを使用した講義形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>[事前学習] テキストの指定箇所を熟読した上で、用語や理論を事前に確認しておくこと(各回1時間程度)。</p> <p>[事後学習] テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用することが好ましい。</p>
テキスト	加護野忠男・吉村典久編(2021)、『1からの経営学(第3版)』中央経済社(税込2,640円)。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。一見して難しいと判断して敬遠するのではなく、いかに物事を簡単に捉えることができるのか、という視点を身に付けていきましょう。
評価方法	試験(100%)
参考文献	青島矢一(2022)、『はじめての経営学 経営学入門』東洋経済新報社。 伊丹敬之・加護野忠男(2022)、『ゼミナール経営学入門(新装版)』日経BP(日本経済新聞出版本部)。

	武石彰(2021).『経営学入門』岩波書店. 藤田誠(2015).『ベーシック+ 経営学入門』中央経済社.
備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある.

講義科目名称：経営情報論(DX論)(40381)

授業コード：

英文科目名称：Management and Information Systems(DX)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>経営学の立場からデジタル技術やデータサイエンス、AIに関する知識を多角的かつ包括的に学修する。これらに関する技術や情報は日々加速度的に発展しており、現代社会の企業経営には不可欠な概念である。そこで、まずはデジタル・トランスフォーメーション(DX変革：Digital Transformation)の概念を理解した上で、デジタル技術が企業経営に与える影響を整理する。その上で、企業経営におけるデジタル技術の事例を参照しながら、DX変革の核心をなす価値創造の考え方を学修する。</p> <p>経営情報論(DX論)において登場する概念や枠組みを学修することにより、1. 経営情報論や実社会で用いられる用語や理論について理解して説明することができる、2. 学修した内容や理論を用いて実社会のデジタル経営について理解して説明することができる、3. 実社会のデジタル経営について理解した上で実際の組織の管理運営に応用することができる、という能力を身に付けることが本講義の到達目標である。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：DX(Digital Transformation)の概要</p> <p>第2回 デジタル経営とビジネスモデル：ICTを活用したデジタル経営とビジネスプロセス/ビジネスモデルの概要</p> <p>第3回 パターン認識と予測：AIによるビジネスの変化とビジネスモデルの変革</p> <p>第4回 最適化：ビジネス・アナリティクスと意思決定のための最適化</p> <p>第5回 サプライチェーン・マネジメント：ビジネスプロセスの管理と強化</p> <p>第6回 ブロックチェーン：ブロックチェーン技術のビジネスへの応用</p> <p>第7回 デジタル経営の戦略とプロセス：顧客価値の創造のためのソリューション提案</p> <p>第8回 DX変革：デジタル技術を活用した暗黙知の見える化とバリューチェーン</p> <p>第9回 リテールAI：サプライチェーンにおける協業</p> <p>第10回 IoTソリューション・ビジネス：ユーザーエクスペリエンスを高めるために</p> <p>第11回 スマートファクトリー：生産ラインのモジュール化</p> <p>第12回 ビジネス・エコシステム：プラットフォームを介したオープン市場のビジネス</p> <p>第13回 スマート農業：持続可能な農業を支える見える化と自動・無人化</p> <p>第14回 オンライン・メンテナンス：DX変革とデータ活用による価値創造</p> <p>第15回 スポーツテック：デジタル技術によるパーソナル化</p>
授業概要	Microsoft社のPowerPointを使用した講義形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>[事前学習] テキストの指定箇所を熟読した上で、用語や理論を事前に確認しておくこと(各回1時間程度)。</p> <p>[事後学習] テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用することが好ましい。</p>
テキスト	伊藤宗彦・松尾博文・富田純一(2022).『1からのデジタル経営』中央経済社(税込2,640円)。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。一見して難しいと判断して敬遠するのではなく、いかに物事を簡単に捉えることができるのか、という視点を身に付けていきましょう。
評価方法	試験(100%)

参考文献	生稲史彦・高井文子・野島美保(2021).『コア・テキスト 経営情報論』新世社. 遠山暁・村田潔・古賀広志(2021).『現代経営情報論』有斐閣.
備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある.

講義科目名称：経営管理論(40392)

授業コード：

英文科目名称：Business Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			講義形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>企業経営の管理(management)という側面に関する代表的な諸理論について学修する。まず、テイラー(Taylor, F. W.)の科学的管理法やファヨール(Fayol, J. H.)の管理原則論などの古典的な経営管理論に焦点を当て、経営管理論とはどのような学問であるのかを理解する。その後、バーナード(Bernard, C. I.)やサイモン(Simon, H. A.)の諸理論や人間関係論、コンティンジェンシー理論、経営戦略論、経営組織論などの近代的な学説を概観し、経営管理の限界点や課題を議論する。</p> <p>経営管理論の代表的な諸理論について学修することにより、1. 経営管理論や実社会で用いられる用語や理論について理解した上で説明することができる、2. 学修した用語や理論を用いて実社会の経営管理について理解して説明することができる、3. 実社会の経営管理について理解した上で実際の組織の経営管理に応用することができる、という能力を身に付けることが本講義の到達目標である。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション：経営管理とはどのような学問なのか</p> <p>第2回 企業形態論：企業とはどのような存在なのか</p> <p>第3回 古典的管理論：科学的管理法と人間関係論</p> <p>第4回 組織マネジメントの展開：バーナードの組織論とサイモンの意思決定論</p> <p>第5回 モティベーション論：協働の意欲を引き出す要因と過程</p> <p>第6回 リーダーシップ論：優れたリーダーの姿とは</p> <p>第7回 組織構造のマネジメント：分業と調整の仕組み</p> <p>第8回 組織文化のマネジメント：共有された価値観と行動規範</p> <p>第9回 コンティンジェンシー理論：経営組織の環境適応</p> <p>第10回 企業戦略論：ドメインと多角化の論理</p> <p>第11回 競争戦略論：業界の分析とライバル企業との競争</p> <p>第12回 イノベーション論：革新のマネジメント</p> <p>第13回 日本企業の人的資源管理：経営資源としてのヒトの管理</p> <p>第14回 日本企業の生産管理：経営資源としてのモノの管理</p> <p>第15回 日本企業の財務管理と企業統治：経営資源としてのカネの管理</p>
授業概要	Microsoft社のPowerPointを使用した講義形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>[事前学習] テキストの指定箇所を熟読した上で、用語や理論を事前に確認しておくこと(各回1時間程度)。</p> <p>[事後学習] テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用することが好ましい。</p>
テキスト	上野恭裕・馬場大治(2016).『ベーシック+ 経営管理論』中央経済社(税込2,640円)。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。一見して難しいと判断して敬遠するのではなく、いかに物事を簡単に捉えることができるのか、という視点を身に付けていきましょう。
評価方法	試験(100%)

参考文献	伊丹敬之・加護野忠男(2022).『ゼミナール経営学入門(新装版)』日経BP(日本経済新聞出版本部). 野中郁次郎(1980).『経営管理』日本経済新聞社.
備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>Microsoft社のExcelを使用して、ビジネスの現場で求められる基本的な経営分析の手法を学修する。本講義で取り扱う経営分析の手法は、ビジネスの現場において適切な意思決定をサポートするような有用性が高いものである。</p> <p>経営分析の基本的な手法について学修することにより、1. セオリアルおよびプラクティカルな経営分析の手法について理解して説明することができる、2. 学修した経営分析の基本的な手法を用いて実社会の企業活動について分析して理解することができる、3. 一次データあるいは二次データを用いて実際の組織における経営分析の結果を企業経営の意思決定に利活用することができる、という能力を身に付けることが本講義の到達目標である。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 分散分析・一元配置</p> <p>第3回 分散分析：繰り返しのある二元配置</p> <p>第4回 分散分析：繰り返しのない二元配置</p> <p>第5回 相関分析</p> <p>第6回 共分散分析</p> <p>第7回 基本統計量</p> <p>第8回 指数平滑</p> <p>第9回 F検定：2標本を使用した分散の検定</p> <p>第10回 フーリエ解析</p> <p>第11回 ヒストグラム</p> <p>第12回 移動平均</p> <p>第13回 乱数</p> <p>第14回 順位と百分位</p> <p>第15回 回帰分析</p>
授業概要	Microsoft社のExcelを使用した演習形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>〔事前学習〕 取り扱う用語や分析手法を事前に確認すること(各回1時間程度)。</p> <p>〔事後学習〕 テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用・閲覧することが好ましい。</p>
テキスト	レジュメを適宜配布する形式を採用する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	Excelは失敗したとしても「元に戻す」でやり直すことができます。何度失敗しても構いません。少しずつ丁寧にやり続けることで、誰でもできるようになります。「できた!」という体験を積み重ねて、成功することや達成することの喜びを感じつつ、知識や技能を修得していきましょう。
評価方法	課題提出(100%)
参考文献	豊田裕貴(2017).『Excel分析ツール 完全詳解』秀和システム。

備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. メディアの発展について歴史的側面から概観し、研究に必要な方法論を習得する。 2. 現代社会においてメディアが有している文化的・社会的意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 「メディア」とは何か メディア論の射程</p> <p>第2回 メディアの歴史と「メディア史観」</p> <p>第3回 記号とコミュニケーション</p> <p>第4回 メディアの作用</p> <p>第5回 言語コミュニケーション／非言語コミュニケーション</p> <p>第6回 メディア・アイデンティティ・身体</p> <p>第7回 コミュニケーション様式の変化とメディアのデジタル転回</p> <p>第8回 マスコミュニケーションと日常のグローバル化</p> <p>第9回 メディアと公共圏</p> <p>第10回 監視と権力</p> <p>第11回 現代資本主義と文化産業</p> <p>第12回 欲望と流行のメディア／交換と贈与の体系</p> <p>第13回 視覚文化と表象</p> <p>第14回 コンテンツ分析の方法論</p> <p>第15回 インターメディア／オルタナティブ・メディア</p>
授業概要	メディア論／記号論／映像理論といったメディアをめぐる諸理論を概観し、かつそれらの諸観点に基づいて、メディアとその発展史ならびに文化的特性について分析的に講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を求めます。授業中に案内しますが、普段から良質のドキュメンタリーや報道番組、あるいは映画・映像作品を視聴／鑑賞することを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	池田理知子・松本健太郎編著『メディア・コミュニケーション論』、ナカニシヤ出版、2010年、2200円（本体価格）、購入方法等については別途指示します。その他の資料については適宜プリント等を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題レポートを活用した質問・意見交換などを通じて、今日のメディア社会に課せられた諸問題について、皆さんが自分自身で「考える」力を身につけられるように工夫します。
評価方法	授業中の提出課題50%、期末レポート50%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：メディア表現論（40521）

授業コード：40521

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. デジタル表現・制作の現場において必要とされる技術的知識を習得する。 2. メディア表現に関する理論と枠組みを表現史の観点から理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス デジタルデータの形式</p> <p>第2回 デザインの歴史</p> <p>第3回 イラストレーションとデザイン</p> <p>第4回 文字の情報処理</p> <p>第5回 タイポグラフィとデザイン</p> <p>第6回 色彩の情報処理</p> <p>第7回 商業印刷における色彩表現</p> <p>第8回 色彩調和と配色の理論</p> <p>第9回 著作権とデザイン</p> <p>第10回 写真の歴史</p> <p>第11回 写真表現の理論</p> <p>第12回 (デジタル) 写真の原理</p> <p>第13回 メディア表現と「アート」</p> <p>第14回 デジタル動画とアニメーション</p> <p>第15回 デジタル音楽制作の理論と実践</p>
授業概要	現代のデジタル表現技術に関して、その前提となる表現史、表現理論、ならびに制作の方法論を講義形式で概観します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	タイポグラフィ、色彩論、写真表現、デジタル動画／音楽のそれぞれの分野について、課題レポート／作品レビュー等の提出を求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	実作品の鑑賞や解説などを可能な限り混じえることで、技術的な知識と表現の歴史・技法の解説とが、受講生の皆さんの創作的意欲につながるような授業にします。
評価方法	授業での課題提出・小テスト70%、期末課題30%。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. マンガならびにアニメを研究対象にした視覚文化作品の分析の方法論を学び、実際に作品分析を行う。 2. 表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マンガ／アニメと教育</p> <p>第3回 マンガ／アニメの歴史（論）</p> <p>第4回 マンガと文学・ライトノベル</p> <p>第5回 マンガ表現論とその「歴史」</p> <p>第6回 キャラクター論</p> <p>第7回 マンガ／アニメとジェンダー</p> <p>第8回 映像・芸術としてのマンガ</p> <p>第9回 マンガ／アニメの物語論</p> <p>第10回 産業としてのマンガ／アニメ</p> <p>第11回 同人誌と同人文化</p> <p>第12回 マンガ／アニメと観光</p> <p>第13回 マンガとミュージアム</p> <p>第14回 マンガ／アニメの海外受容</p> <p>第15回 まとめ マンガ／アニメ研究における学際性</p>
授業概要	マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、実際の作品分析をワークショップ形式で行います。授業に際してはテキストの購入が必須になります。購入方法については最初の授業で説明します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を課します。マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）、購入方法等については講義中に指示します。その他の資料については適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらおうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。
評価方法	授業中の提出課題40%、期末レポート60%。
参考文献	小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [増補改訂版] アニメを究める9つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [応用編] アニメを究める11のコツ』、現代書館、2018年
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. イラストレーション／ポスターデザイン／エディトリアルデザインの制作技術を習得する。 2. 単なる操作技術ではない、表現手段としての技能と方法論を理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ドローソフトによる描画（パス）について</p> <p>第3回 シンボルマークの制作</p> <p>第4回 名刺の制作（文字組みの方法論）</p> <p>第5回 地図・インフォグラフィックスの制作</p> <p>第6回 写真補正の基礎</p> <p>第7回 写真補正の実践と特殊効果</p> <p>第8回 テクスチャ素材とロゴの制作</p> <p>第9回 フライヤーの制作（立案）</p> <p>第10回 フライヤーの制作（レイアウトと構成）</p> <p>第11回 フライヤーの制作（仕上げと講評）</p> <p>第12回 イラストレーションの技法</p> <p>第13回 イラストレーションの制作プロセス</p> <p>第14回 最終課題作品の構想案作成とプレゼンテーション</p> <p>第15回 最終課題作品の制作について</p>
授業概要	<p>Adobe社のIllustrator・Photoshopを用いたデザインやアート表現を、制作を通して実践的に学びます。毎回の演習課題は実地の制作同様のスタイルで進めていきます。自ら考えて表現しようとする意志を要求する授業です。最終的に自由制作課題作品を1点提出してもらいます。</p> <p>本演習は1年次後期の「メディア表現論」を既履修であることを前提に行われますので、そのつもりで履修すること（詳細は「受講生へのメッセージ」欄を参照）。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>授業時間中に行うのは、原則としてソフトウェアの機能や操作、何ができるのか、ということの解説が主となりますので、授業で提示した課題については各自空き時間などに作業をしてもらうこととなります。制作のための写真撮影やデジタル素材集め、スケッチ・レイアウト構成の下書きなどの準備作業も必要となります。</p>
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>後期の講義科目の「メディア表現論」の実践演習と捉えてください。「メディア表現論」の履修はカリキュラム上の必須条件ではありませんが、本演習は同講義で解説した知識が習得済であることを前提に行われます。「メディア表現論」の単位を習得せずに本演習を履修しようとする方は必ず事前に面談に来ること。あらかじめ修得しておくべき知識に不足がみられる場合には履修を認めないこととなります。</p>
評価方法	演習課題の提出70%、最終課題作品（提出必須）30%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：メディアリテラシー（40550）

授業コード：40550

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	メディアの特徴や修辞法を学ぶことにより、メディアが伝えたい物は何かを知り、物事を批評する力を身につける。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	私のメディア史	
	第3回	メディアは構成される	
	第4回	メディアがリアリティを作る	
	第5回	メディアの伝える価値観・商業主義	
	第6回	SNSの広報戦略	
	第7回	Checkologyで学ぶニュース・リテラシー	
	第8回	撮影のコツと動画編集のやり方	
	第9回	動画編集体験（ドローン動画）	
	第10回	動画編集体験（ドローン動画）	
	第11回	動画編集体験（自由制作）	
	第12回	動画編集体験（自由制作）	
	第13回	動画編集体験（自由制作）	
	第14回	動画編集体験（自由制作）	
	第15回	動画作品鑑賞会	
授業概要	メディアリテラシーに関するトピックを取り上げて講義した後、実際にiMacで動画編集を行って「メディアは構成される」ことを理解する。動画撮影用のデジタルカメラは本学備品を貸し出す。編集した動画作品は提出してもらうので、授業時間外でも自主的に作業を進めるくらいの熱意ある学生を歓迎する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	2年に一度、山形市で山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催されます。世界の人々の生活や社会問題を取り上げた良質のドキュメンタリー映画が山形でたくさん上映されます。メディアリテラシーの視点を養うことにも役立つと思いますので、関心がある人はぜひ見に行ってください。		
評価方法	動画作品・課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	「簿記検定2級」・「工業簿記」分野の基本的な知識とスキルを習得することである。		
授業計画	第1回	ガイダンス、工業簿記の考え方、簿記の基本的な事項の復習 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。	
	第2回	簿記の基本的な事項・その2	
	第3回	材料費の処理	
	第4回	材料費の処理・その2	
	第5回	労務費の処理	
	第6回	労務費の処理・その2	
	第7回	経費の処理	
	第8回	経費費の処理・その2	
	第9回	個別原価計算	
	第10回	個別原価計算・その2	
	第11回	個別原価計算・その3	
	第12回	部門別個別原価	
	第13回	部門別個別原価・その2	
	第14回	部門別個別原価・その3	
	第15回	まとめの問題	
授業概要	製品の原価は製品の製造工程の中で決まる。実際に、その製造に必要な材料や人、諸経費、製造方法などの結果としてあらわれる。この授業では、工業簿記の観点から製品原価がどのように決まるのか、について学習する。		
実務経験及び授業の内容	商業簿記の仕訳の基本的な知識を有することが望ましい。		
時間外学習	本科目では1時間の事前学習、4.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間とする。		
テキスト	適宜プリントを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	工業簿記の基本を学びながら、モノをつくっている企業がどのように製品の単価を決めているのか、モノの値段を左右する要素は何かなどについて考えてみませんか。		
評価方法	授業課題およびノートの点検：40%。 期末試験：40%。 平常点：20%。 減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある		
参考文献	初回に紹介する。		
備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」、「授業概要」、「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。		

講義科目名称：情報コミュニケーション(40571)

授業コード：40571

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放(教養)			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業ではマーケティング分野の基本的な考え方について学習する。内閣府認定の「マーケティング3級試験」, 「ビジネスキャリア・マーケティング3級」, 「マーケティング・ビジネス実務検定C級」の範囲の知識とスキルの習得を到達目標とする。		
授業計画	第1回	カイダンス. マーケティング分野の様々な検定の説明	
	第2回	マーケティングの概要	
	第3回	戦略的マーケティング	
	第4回	マーケティング・マネージメント	
	第5回	市場細分化	
	第6回	マーケティング・リサーチ	
	第7回	消費者行動	
	第8回	製品戦略	
	第9回	価格戦略	
	第10回	流通チャンネル戦略	
	第11回	プロモーション戦略	
	第12回	サービスマーケティング	
	第13回	総合問題 1	
	第14回	総合問題 2	
	第15回	プロジェクト	
授業概要	マーケティングの基本的な概念, 市場環境, 戦略的マーケティング, 消費者行動, 戦略などについて学習する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では, 9時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって, 合計15回における事前事後学習の合計時間は135時間としている。		
テキスト	授業で資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	商品が「売れる・売れない」, 逆に言えば, 皆さんがモノを購入する・しないのはなぜか, この授業と一緒にその理由を考えましょう。		
評価方法	授業課題およびノートの点検：40% 期末試験：40% 平常点：20% 減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻(出欠確認後) (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある		
参考文献	特に指定しない。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	本授業では、少子高齢化、地域の衰退などの地域社会の問題に関する資料を定量的に分析する知識とスキルを習得する。		
授業計画	第1回	ガイダンス、行政、政策、その他の基本的な概念 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。	
	第2回	市町村の総合戦略から見る地域社会	
	第3回	地域の少子高齢化対策	
	第4回	子育て・ひとづくり・移住・交流支援の事例	
	第5回	しごと・観光・まちづくりの事例	
	第6回	地元の総合戦略の調査	
	第7回	地元の総合戦略の調査・その2	
	第8回	経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が提供する地域経済分析システム	
	第9回	地域経済分析システムの使い方	
	第10回	地域経済分析システムによる分析	
	第11回	地域経済分析システムによる地元の分析	
	第12回	環境省が提供する地域経済循環分析	
	第13回	地域経済循環分析の使い方	
	第14回	地域経済循環分析による分析	
	第15回	地域経済循環分析による地元の分析	
授業概要	市町村の総合政策をもとに地域社会が直面する諸問題を分析してそれぞれの視点で対策方法などを考える。授業の前半は座学で、後半は実習である。実習では、内閣府や政府機関が提供する分析システムで自分の地域を分析し、問題解決の方法を考える。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では1時間の事前学習、4.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間の目安は67.5時間とする。		
テキスト	授業で資料を適宜配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	地位社会の問題をデータ分析の観点から見て、自分の地域の問題解決を考えてみましょう。		
評価方法	授業課題およびノートの点検：40%。 期末試験：40%。 平常点：20%。 減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある		
参考文献	初回に紹介する。		
備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」、「授業概要」、「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】企業で扱う顧客情報や商品情報など、ICT社会の根幹を担うデータベースの基礎的な事項を理解する。</p> <p>【到達目標】業務にて小規模なデータベースシステムを取り扱う場合を想定して、業務に必要なスキルを身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 前半はデータベースに関する基礎知識について学ぶ。後半は前半で学んだ基礎知識をもとにデータベースの実習を行う。</p> <p>第2回 データとデータベース</p> <p>第3回 テーブルとその構造、主キーと外部キー</p> <p>第4回 リレーショナルデータモデル</p> <p>第5回 リレーショナル代数</p> <p>第6回 データの正規化</p> <p>第7回 実習用データベースのテーブル設計、リレーションシップの確認 課題1</p> <p>第8回 実習用データベースにおけるテーブル作成、リレーションシップの作成</p> <p>第9回 実習用データベースにおけるクエリの作成 課題2</p> <p>第10回 実習用データベースにおけるクエリによるレコードの抽出</p> <p>第11回 実習用データベースにおける様々な抽出条件を設定したクエリによるレコードの抽出</p> <p>第12回 実習用データベースにおけるクエリによるグループ化と集計</p> <p>第13回 実習用データベースにおけるフォーム作成およびフォームを活用したテーブルへのデータ登録 課題3</p> <p>第14回 実習用データベースにおけるレポートを活用した帳票とその設計</p> <p>第15回 実習用データベースにおけるレポートを活用した帳票とその設計 期末課題</p>
授業概要	講義ではデータベースに関する基礎的な知識の定着に努めます。実際にパソコンを使ってデータベース実習を行います。実習では講義で培ったデータベースに関する基礎的な知識をもとにして、データベースに関する技術や操作の習得に努めます。データベースシステムはMicrosoft Accessを使用します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしデータベース概論の授業を行います。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題の作成に取り組みます。
テキスト	適宜、講義資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	情報リテラシーの基礎は習得済みとして講義を行います。出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとなります。
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価を行います。 授業時課題（課題1～課題3）の得点の合計点（各課題の配点の総合計を授業時課題の満点とする）を60%、 期末課題の得点の合計点（各セクションの配点の総合計を期末課題の満点とする）を40% 課題ファイルは指定の期限内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。授業時課題および期末課題はルーブリックに基づいて評価を行います。
参考文献	

備考	必携：USBメモリ・配布資料

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する</p> <p>【到達目標】1. プログラミング言語の文法やそれを記述するための作業の仕方を身に付ける 2. プログラムを順序立てて正確に作成する</p>
授業計画	<p>第1回 プログラミング、開発環境について 本講義で使用するプログラミング言語はVisual Basic For Applicationを用います。</p> <p>第2回 計算と入出力：文字列の取り扱い</p> <p>第3回 計算と入出力：数値（整数）の取り扱い</p> <p>第4回 計算と入出力：数値（小数）の取り扱い</p> <p>第5回 処理の選択：If文 課題1</p> <p>第6回 処理の選択：If文による処理の多重分岐</p> <p>第7回 画面作成で使用するコントロールの取り扱い 課題2</p> <p>第8回 画面作成で使用するコントロールの取り扱い</p> <p>第9回 条件分岐処理：Select Case文 課題3</p> <p>第10回 繰り返し処理：Do While～Loop文</p> <p>第11回 繰り返し処理とワークシートの操作 課題4</p> <p>第12回 繰り返し処理：For～Next文</p> <p>第13回 配列</p> <p>第14回 動的配列</p> <p>第15回 まとめ 期末課題(問題1、問題2)</p>
授業概要	プログラムを作成することでコンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング1の授業を行います。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認とその応用を含めた課題プログラムの作成に取り組みます。
テキスト	授業中に資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	プログラム作成はトライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしい。授業の出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとなります。
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価を行います。授業時課題(課題1～課題4)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を満点)を40%、授業で作成した例題プログラムの提出点の合計(授業で作成した例題プログラムの総数×2点を満点)を20%、期末課題(問題1、問題2)の得点の合計点(各問題の配点の総合計を満点)を40% 授業時課題および期末課題の課題プログラムはルーブリックに基づいて評価を行います。課題ファイルは指定の期限内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が多数所蔵されています。

備考	必携：USBメモリ・配布資料

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する</p> <p>【到達目標】1. Webプログラミング言語の文法やそれを記述するための作業の仕方を身に付ける 2. プログラムを順序立てて正確に作成できる</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、JavaScriptの基本的な記述方法 本講義で使用するプログラミング言語はJavaScriptを用います。</p> <p>第2回 JavaScriptの基本的な記述方法</p> <p>第3回 変数とデータ型</p> <p>第4回 条件分岐：if命令 課題1</p> <p>第5回 処理の多重分岐：else if命令、switch命令</p> <p>第6回 繰り返し処理：while命令、do...while命令 課題2</p> <p>第7回 繰り返し処理：for命令、for...in命令</p> <p>第8回 関数の定義とその利用 課題3</p> <p>第9回 イベントの発生とその取り扱い方法</p> <p>第10回 JavaScriptからHTML要素を扱う 課題4</p> <p>第11回 タイマー処理の実現</p> <p>第12回 Canvas要素によるグラフィック操作</p> <p>第13回 Canvas要素によるグラフィック操作とアニメーション</p> <p>第14回 Canvas要素によるアニメーション</p> <p>第15回 Canvas要素によるアニメーション、まとめ 期末課題（問題1、問題2）</p>
授業概要	プログラムを作成することで、コンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング2の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認とその応用を含めた課題プログラムの作成に取り組みます。
テキスト	適宜、講義資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	プログラム作成は一度で全てが上手くいくことはなく、トライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしい。授業の出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとなります。
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価を行います。授業時課題(課題1～課題4)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を満点)を40%、動作確認を行った例題プログラム提出点の合計(例題プログラムの総数×2点を満点)を20%、期末課題(問題1、問題2)の得点の合計点(各問題の配点の総合計を満点)を40% 授業時課題および期末課題の課題プログラムはルーブリックに基づいて評価を行います。課題ファイルは指定の期限内に指定の場所に提出されたファイルが評価の対象となります。
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が所蔵されています。

備考	必携：USBメモリ・配布資料

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ネットワーク、セキュリティなどIT技術に関する基本的な考え方や特徴などを学ぶ。 【到達目標】IT技術やPCの仕組みなどについての知識や技術を説明できる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ヒューマンインターフェース</p> <p>第3回 コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎的な理論</p> <p>第4回 集合と論理演算、文字の表現</p> <p>第5回 アルゴリズムとプログラミング</p> <p>第6回 コンピュータ構成要素</p> <p>第7回 システム構成要素</p> <p>第8回 システム構成要素</p> <p>第9回 オペレーティングシステム、ソフトウェア</p> <p>第10回 マルチメディア</p> <p>第11回 ネットワークの形態とプロトコル</p> <p>第12回 インターネットの仕組みとそのサービス</p> <p>第13回 情報セキュリティ</p> <p>第14回 情報セキュリティ対策</p> <p>第15回 暗号化技術</p>
授業概要	昨今のICT社会を反映して通常のパソコン操作はできるものの、トラブルには対応できないなどの不安を持つ者も多い。これはITに関する知識や技術の不足が主な原因であるため、講義ではITに関するコア知識を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしIT概論の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。【事後学修】として配布資料や参考文献などをいま一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理してください。(所要時間：各回2～4時間程度)
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	口頭で説明した内容が重要な内容である場合も多いため、配布資料にマーキングを行う、ノートやメモを取るなどをして講義内容を頭で考え理解するように努めることが重要です。出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままととなります。
評価方法	期末試験の点数(100点満点)を100% 期末試験の受験資格は授業回数の3分の2以上の出席を条件とします。期末試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。
参考文献	IT技術に関する書籍やITパスポート試験に関するテキストは図書館などに数多く所蔵されています。例えばITパスポート試験に関するテキストでは、FOM出版「よくわかるマスター 令和4-5年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」2,420円(税込み)があります。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	論理的な文章が書けるようになる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（講義方針の共有／調査技術 調べるということ／調査課題と方法の検討）</p> <p>第2回 調査技術（文献や資料を調べる）</p> <p>第3回 調査技術（フィールドワークをする）</p> <p>第4回 調査テーマの発表</p> <p>第5回 論理的な文章（日本語と論理—伝えるためのマナー）</p> <p>第6回 論理的な文章（議論の日本語—論文をめざして）</p> <p>第7回 論理的な文章（議論の論理—さまざまな論法と反論）</p> <p>第8回 中間報告</p> <p>第9回 論理的な文章（議論の論理—さまざまな論法と反論） ・各自のレポートに即して</p> <p>第10回 進捗報告(1) ・問いと答え、アウトラインを中心に</p> <p>第11回 進捗報告(2) ・論理構成を中心に</p> <p>第12回 進捗報告(3) ・結語と残された課題を中心に</p> <p>第13回 期末レポート発表—説得型—</p> <p>第14回 期末レポート発表—レビュー型—</p> <p>第15回 コメントを基に期末レポート再構成</p>
授業概要	レポート作成に必要な知識の習得をおこないます。 習得した方法・考え方を使ってレポートを作成します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ選びのための資料検索、資料読解、レポートの執筆・推敲は時間外学習として各自すすめてください ・講義時間の進捗報告ではテーマの絞り込み、レポートへのコメントをおこないます。
テキスト	・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ストゥディア（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	
評価方法	期末レポート（60%）、進捗報告（40%）
参考文献	・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8
備考	・レポートのテーマは受講生自身が決定します。これまで調べたことのあるテーマの再利用、卒業研究で扱う内容との重複があっても構いません。

講義科目名称：基礎ゼミ二（40720）

授業コード：40720

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、専門ゼミでの研究に向けた基礎的な知識やスキルを身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	テキストの選定	
	第3回	テキストの選定	
	第4回	担当章の割り振り	
	第5回	発表と議論	
	第6回	発表と議論	
	第7回	発表と議論	
	第8回	発表と議論	
	第9回	発表と議論	
	第10回	発表とグループディスカッション	
	第11回	発表とグループディスカッション	
	第12回	発表とグループディスカッション	
	第13回	発表とグループディスカッション	
	第14回	発表とグループディスカッション	
	第15回	ふりかえり	
授業概要	社会心理学や政治学などに関する文献を読んで、各回の担当者がパワーポイントにまとめて発表し、みんなで議論する。この議論を行う中で、就活面接で行われるグループディスカッションの練習も行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	みんなで選んで決める。なおレジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	昨年度は植上一希・伊藤亜希子（編）『日常のなかの「フツー」を問いなおす』（法律文化社）を読みました。今年度もゼミ生同士でどんな文献を読みたいかを話し合ってテキストを決めるので、履修希望者は前もって考えておいてください。 なお、この授業の履修を希望する学生はゼミ分けアンケートの理由欄に、社会心理学や政治学など、どんな学問分野に関心があるかと、どんなテーマの文献が読みたいかについて書いてください。質問や相談がある場合は亀ヶ谷研までお越しください。		
評価方法	発表・課題（70％）、授業への参加度（30％）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>経営に関する基礎的・専門的な知識について全国レベルで資格認定する唯一の検定試験である「マネジメント検定(経営学検定)」の試験対策を通じて、実社会で積極的に企業活動に参画していくために必要なマネジメント観を養うことがテーマである。</p> <p>経営学の基礎的な概念について学修することにより、1. 経営学や実社会で用いられる用語や理論について理解して説明することができる、2. 学修した用語や理論を用いて実社会の企業活動について理解して説明することができる、3. 実社会の企業活動について理解した上で自分自身の初期的なキャリアデザインを描くことができる、という能力を身に付けることが本講義における到達目標である。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 目標設定と戦略的な学習プロセスの策定</p> <p>第3回 企業システム(Part.1)：企業と経営、企業・会社の概念と諸形態</p> <p>第4回 企業システム(Part.2)：所有・経営・支配と経営目的、企業統治</p> <p>第5回 経営戦略(Part.1)：基礎理論、全社戦略</p> <p>第6回 経営戦略(Part.2)：事業戦略、機能別戦略</p> <p>第7回 経営組織(Part.1)：基礎理論、組織の基本形態</p> <p>第8回 経営組織(Part.2)：企業組織の諸形態、制度・管理・文化</p> <p>第9回 経営管理(Part.1)：基礎理論、マネジメントの階層とプロセス</p> <p>第10回 経営管理(Part.2)：経営計画、コントロール</p> <p>第11回 経営課題(Part.1)：M&Aと買収防衛策、経営のグローバリゼーション</p> <p>第12回 経営課題(Part.2)：企業経営と情報化、CSRと企業倫理</p> <p>第13回 模擬試験(Part.1)</p> <p>第14回 模擬試験(Part.2)</p> <p>第15回 総括</p>
授業概要	「マネジメント検定(経営学検定)」の解説書を輪読した後に過去問題に取り組み、その後に解答と解説をおこなう形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>[事前学習] レジュメの指定箇所を熟読した上で、用語や理論を事前に確認すること(各回1時間程度)。</p> <p>[事後学習] テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用・閲覧することが好ましい。</p>
テキスト	レジュメを適宜配布する形式を採用する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。難しいからといって敬遠するのではなく、いかに簡単に捉えることができるか、という視点を身に付けていきましょう。
評価方法	第2回目の講義において学生自身が設定した目標の達成率(100%)
参考文献	一般社団法人日本経営協会編(2023).『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級)経営学の基本』中央経済社。 一般社団法人日本経営協会編(2018).『経営学の基本(経営学検定試験公式テキスト)』中央経済社。

備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
未定			

授業のテーマ及び到達目標	就職活動や編入活動に必要な論理的思考や経済学の基礎知識の習得を目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス ゼミ参加者の学習履歴・学習目的により変更する可能性があります。 第1回目のゼミの際に使用テキストなど相談します。 テキストを利用する場合は、輪読形式で行います。	
	第2回	一国の経営（マクロレベル）①テーマ：資金循環	
	第3回	一国の経営（マクロレベル）②テーマ：雇用と教育	
	第4回	一国の経営（マクロレベル）③テーマ：投資	
	第5回	一国の経営（マクロレベル）④テーマ：国富	
	第6回	開発経済①テーマ：資源	
	第7回	開発経済②テーマ：街の場所	
	第8回	開発経済③テーマ：街道建設	
	第9回	開発経済④テーマ：街の発展	
	第10回	開発経済⑤テーマ：港の利用	
	第11回	個別企業の経営①テーマ：初期資源（初期賦存）	
	第12回	個別企業の経営②テーマ：投資	
	第13回	個別企業の経営③テーマ：生産	
	第14回	個別企業の経営④販売	
	第15回	まとめ	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・設定されたテーマについて学生が考え、報告する形式をとります。 ・遠隔授業となった場合、Teamsを利用したリアルタイム講義の予定です。 		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習：各テーマにつき、自分で必要な場合は事前に調査等を行ってください（必要時間は各自の検索能力等によるため異なるが30分～1時間程度）。 復習：必要はありません。		
テキスト	参加者の学習履歴に合わせたテキストをゼミ内で指定します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学の知識があると株価や為替、景気など、新聞や経済ニュースの理解が容易になります。また、論理的思考ができたり、報告に慣れていたりすると進路選択の幅が広がるはずです。		
評価方法	ディスカッションへの参加およびパフォーマンス100%。 無断欠席は1回につき10%のマイナス評価。		
参考文献			
備考	※記載内容は、前年度の講義計画ですので参考程度にご覧ください。 ※本科目における講義計画は、担当教員が決定し次第更新しますので、学務システムからご確認ください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 実際の作品分析を通して、記号論や映像論・写真論・アニメーション研究・マンガ研究などにおける批評理論の基本的枠組を理解します。 2. 作品批評をプレゼンテーションとして発表し、かつコメントする能力を養います。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 作品分析の方法論</p> <p>第3回 視覚文化研究の文献講読(1)</p> <p>第4回 作品鑑賞と分析(1)</p> <p>第5回 受講生による報告発表(1)</p> <p>第6回 視覚文化研究の文献講読(2)</p> <p>第7回 作品鑑賞と分析(2)</p> <p>第8回 受講生による報告発表(2)</p> <p>第9回 視覚文化研究の文献講読(3)</p> <p>第10回 作品鑑賞と分析(3)</p> <p>第11回 受講生による報告発表(3)</p> <p>第12回 視覚文化研究の文献講読(4)</p> <p>第13回 作品鑑賞と分析(4)</p> <p>第14回 受講生による報告発表(4)</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	基本的には文献講読を行なったうえで、2～3人の受講生による作品分析と報告発表を演習形式で行います。分析に必要な理論や概念を発表の合間に講義します。分析作品は受講生の興味・関心に応じて決めていく予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げている映画・映像作品に関連する作品を別途鑑賞することを求めます。また受講生の報告発表の内容に関連してその他参考作品を提示してもらうこともあります。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品の「感想」「印象」と、「鑑賞」「批評」とはまったく似て非なるものです。感性的に与えられたものについて分析的に捉えて考察する「眼」と、その分析を言語化し、他の人に解説する能力を養っていただければと考えています。
評価方法	報告発表70%、期末レポート課題30%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：基礎ゼミ六（40760）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	文部科学省の後援で全国経理学校協会「税務会計能力検定」（税務検定）、および「金融業務能力検定・税務コース」の範囲を網羅し、検定試験で求められる知識とスキルを習得することである。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス．所得金額の計算，所得控除</p> <p>第2回 税額の計算方法，税額控除，申告と納付，金融商品</p> <p>第3回 所得税の演習問題</p> <p>第4回 所得税の演習問題・その2</p> <p>第5回 法人税法</p> <p>第6回 法人税法の演習問題</p> <p>第7回 法人税法の演習問題・その2</p> <p>第8回 消費税</p> <p>第9回 消費税法の演習問題</p> <p>第10回 消費税法の演習問題2</p> <p>第11回 不動産・譲渡所得と税金</p> <p>第12回 不動産・譲渡所得と税金の演習問題</p> <p>第13回 相続・贈与と税金</p> <p>第14回 相続・贈与と税金の演習問題</p> <p>第15回 総合問題</p>
授業概要	所得税法，法人税法，消費税，法不動産・譲渡所得と税金，相続・贈与と税金などについて学習する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では，1.5時間の事前学習，3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している．よって，合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている．ただし，技術・スキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である．
テキスト	適宜プリントを配布します
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この機会に私たちが日頃から納めている税金の仕組みなどについて勉強しましょう．
評価方法	授業課題およびノートの点検：40% 期末試験：40% 平常点：20% 減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある
参考文献	初回に紹介する。
備考	上の「授業のテーマ及び到達目標」、「授業概要」、「授業内容」と「受講生へのメッセージ」をよく読んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】生活に深く浸透したITや企業における経営についてのより深い学びを行います。 【到達目標】ITと経営に関する知識について説明することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 システム要件定義、システム設計、システム開発における見積りの考え方。確認テスト</p> <p>第3回 テスト実施手順、テストの技法、テスト評価。確認テスト</p> <p>第4回 システム導入、システムの受け入れ、システム運用、システム保守。確認テスト</p> <p>第5回 ソフトウェア開発手法、ソフトウェア開発モデル。確認テスト</p> <p>第6回 プロジェクトマネジメントの意義とその目的。確認テスト</p> <p>第7回 プロジェクトマネジメントに必要な知識体系。確認テスト</p> <p>第8回 アローダイアグラム。確認テスト</p> <p>第9回 サービスマネジメント。確認テスト</p> <p>第10回 サービスマネジメントシステム。確認テスト</p> <p>第11回 サービスデスク。確認テスト</p> <p>第12回 ファシリティマネジメント。確認テスト</p> <p>第13回 システム監査の意義とその目的、システム監査のプロセス。確認テスト</p> <p>第14回 内部統制、ITガバナンス。確認テスト</p> <p>第15回 まとめ。確認テスト</p>
授業概要	経済産業省の国家資格「ITパスポート試験」を意識し、特にプロジェクトマネジメント、システム開発などIT管理（マネジメント系）に関する基礎知識を身に付けていく。またITパスポート試験の公開問題にもチャレンジしていく。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし基礎ゼミ七の運営を行う。
時間外学習	【事前・事後学修】ITパスポート試験の合格に向けて、毎回指定した範囲の確認テストを実施する。テキストやノート等を参照しながらテスト範囲の内容の理解を深める。（所要時間：各回4時間以上）
テキスト	FOM出版、「よくわかるマスター 令和4-5年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」、FOM出版、2,420円（税込）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミ配属条件は次の3つを条件とする。①「IT概論」と「経営学入門」の2科目を履修済みであること、②学期末にITパスポート試験の受験を行うこと、③ITパスポート試験合格の場合は広報活動に参加すること
評価方法	マネジメント系の各単元の内容の読み込みと読んだ回数の記録状況の提出を20%、各単元の重要事項をまとめたノートの作成およびノート提出を40%、確認テストの得点の合計点(確認テストの配点の総合計を満点とする)を40%
参考文献	ITや経営に関するテキストが図書館に数多く所蔵されています。
備考	教科書や配布済み資料のすべてを毎回必ず持参してください。

講義科目名称：専門ゼミ一（40810）

授業コード：40810

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業研究として研究論文の執筆をおこないます。		
授業計画	第1回	ガイダンス（講義方針の共有／調査技術 調べるといふこと／調査課題と方法の検討）	
	第2回	調査技術（文献や資料を調べる）	
	第3回	調査技術（フィールドワークをする）	
	第4回	調査テーマの発表	
	第5回	論理的文章（日本語と論理—伝えるためのマナー）	
	第6回	論理的文章（議論の日本語—論文をめざして）	
	第7回	論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論）	
	第8回	前期中間報告	
	第9回	論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論） ・各自のレポートに即して	
	第10回	進捗報告(1) ・問いと答え、アウトラインを中心に	
	第11回	進捗報告(2) ・論理構成を中心に	
	第12回	進捗報告(3) ・結語と残された課題を中心に	
	第13回	期末レポート発表—説得型— 前期末レポートの提出	
	第14回	期末レポート発表—レビュー型— 前期末レポートの提出	
	第15回	コメントを基に期末レポート再構成	
	第16回	ガイダンス（調査課題と方法の再検討）	
	第17回	調査技術（文献や資料を調べる）	
	第18回	調査技術（フィールドワークをする）	
	第19回	後期中間報告—説得型—	
	第20回	後期中間報告—レビュー型—	
	第21回	論理的文章（日本語と論理—伝えるためのマナー）	
	第22回	論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論）	
	第23回	論理的文章（議論の論理—さまざまな論法と反論） ・各自のレポートに即して	
	第24回	進捗報告(4) ・問いと答え、アウトラインを中心に	
	第25回	進捗報告(5)	

	<p>・論理構成を中心に</p> <p>第26回 進捗報告(6)</p> <p>・結語と残された課題を中心に</p> <p>第27回 後期末レポート発表—説得型—</p> <p>第28回 後期末レポート発表—レビュー型—</p> <p>第29回 後期末レポート発表—説得型— ・コメントを受けた修正版の提出</p> <p>第30回 後期末レポート発表—レビュー型— ・コメントを受けた修正版の提出</p>
授業概要	レポート作成に必要な知識や社会調査の方法を用いて5,000字以上の論文を作成します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ選びのための資料検索、資料読解、レポートの執筆・推敲は時間外学習として各自すすめてください ・講義時間の進捗報告ではテーマの絞り込み、レポートへのコメントを中心におこないます。
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会学」「情報社会論」「地域社会学」「環境社会学」「社会調査演習」のうち、少なくとも3科目を既履修であることが望ましいです。 ・次のどちらかに取り組みたい学生におすすめです。 (1)社会学もしくは農山漁村研究の学術書を丁寧に読みたい。 (2)社会学もしくは農山漁村に関連するテーマについてインタビューや参与観察などの質的手法で調査研究したい。
評価方法	期末レポート（60%）、進捗報告（40%）
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学—伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートのテーマは受講生自身が決定します。これまで調べたことのあるテーマの再利用、他科目で扱った内容との重複があっても構いません。

講義科目名称：専門ゼミ二（40820）

授業コード：40820

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、卒業研究の作成に必要な知識やスキルを身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	行動科学概論の復習（文献検索）	
	第3回	行動科学概論の復習（統計分析）	
	第4回	行動科学概論の復習（統計分析）	
	第5回	引用文献の発表	
	第6回	引用文献の発表	
	第7回	引用文献の発表	
	第8回	引用文献の発表	
	第9回	引用文献の発表	
	第10回	研究計画の発表	
	第11回	研究計画の発表	
	第12回	研究計画の発表	
	第13回	研究計画の発表	
	第14回	研究計画の発表	
	第15回	前期ふりかえり	
	第16回	卒論中間提出・第1回添削校正大会	
	第17回	個別指導	
	第18回	個別指導	
	第19回	個別指導	
	第20回	個別指導	
	第21回	個別指導	
	第22回	個別指導	
	第23回	個別指導	
	第24回	個別指導	
	第25回	卒論原稿提出・第2回添削校正大会	

	<p>第26回 添削と推敲</p> <p>第27回 添削と推敲</p> <p>第28回 添削と推敲</p> <p>第29回 卒業論文集編集大会</p> <p>第30回 後期ふりかえり</p>
授業概要	<p>前期はオリエンテーションと復習を行った後、卒業論文の引用文献と研究計画について、順番に各自発表してもらおう。後期は卒業論文の中間提出と添削校正を行った後、順番に個別指導を進める。推敲や編集作業を経て、最後に卒業論文集を作り上げる。各自の研究テーマは、政治や社会心理、文化に関するものなど、自由に決めてよい。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。</p>
テキスト	<p>なし。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>人間や社会に対する好奇心が旺盛で、自主的に卒業研究に取り組み、締切までに卒業論文を確実に提出できる学生を歓迎します。この授業の履修を希望する学生はゼミ分けアンケートの理由欄に、社会心理学や政治学など、どんな学問分野に関心があるかと、どんなテーマで卒論をまとめたかについて書いてください。質問や相談がある場合は亀ヶ谷研までお越しくください。過去のゼミ卒論集も亀ヶ谷研に保管してあるので、卒論テーマ選びの参考にしてください。</p>
評価方法	<p>発表・課題（70%）、授業への参加度（30%）</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：専門ゼミ三(40830)

授業コード：40830

英文科目名称：Pro. Seminar 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>広義の組織・企業を対象とした経営研究を通じて、経営管理論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング論などから自らが選択した学問領域の理論や分析手法を学修し、実際の組織・企業活動のメカニズムを探求することが本講義のテーマである。また、既存研究の成果を丹念にレビューすることを通じて自らが課題や仮説を設定し、それを探求することによって一定の研究成果を導出することが到達目標である。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス：研究分野とリサーチサイト	
	第2回	リサーチクエスション：仮説発見と仮説検証，魅力と現実	
	第3回	リサーチクエスション：既存研究の調査方法	
	第4回	リサーチクエスションの設定と報告に向けて (Part. 1)	
	第5回	リサーチクエスションの報告に向けて (Part. 2)	
	第6回	リサーチクエスションの報告と議論	
	第7回	アカデミックライティングの作法：概要と必要性	
	第8回	アカデミックライティングの作法：倫理観とペナルティ	
	第9回	アカデミックライティングの作法：模倣と新規性	
	第10回	個別指導 (Part. 1)	
	第11回	個別指導 (Part. 2)	
	第12回	個別指導 (Part. 3)	
	第13回	個別指導 (Part. 4)	
	第14回	進捗状況の報告と議論 (Part. 1)	
	第15回	進捗状況の報告と議論 (Part. 2)	
	第16回	進捗状況の報告と研究計画の修正	
	第17回	個別指導 (Part. 5)	
	第18回	個別指導 (Part. 6)	
	第19回	個別指導 (Part. 7)	
	第20回	個別指導 (Part. 8)	
	第21回	個別指導 (Part. 9)	
	第22回	個別指導 (Part. 10)	
	第23回	個別指導 (Part. 11)	
	第24回	個別指導 (Part. 12)	

	第25回 個別指導(Part. 13)
	第26回 個別指導(Part. 14)
	第27回 個別指導(Part. 15)
	第28回 口頭試問(Part. 1)
	第29回 口頭試問(Part. 2)
	第30回 口頭試問(Part. 3)
授業概要	広く細分化された経営学術領域のうち、どの分野を自陣とするのか、その分野でどのような研究を遂行して貢献を果たすのか、などの基本的研究姿勢について説明した後、個別指導の形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>[事前学習] 取り扱う既存研究のレビューを丹念におこない、用語や分析手法を事前に確認すること(各回1時間程度)。</p> <p>[事後学習] 配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、研究分野のドミナント・セオリー等を理解することに加えて、各自の研究に適用できるセオリーについて理解した上で、適用する局面や場面を想定すること(各回1時間程度)。 また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用・閲覧することが好ましい。</p>
テキスト	受講者の適性に合わせて指定する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	本ゼミは、学生一人ひとりに適した研究テーマや研究手法を提案して指導する単独主義的な個別指導を採用します。そのため、時間割で割り当てられた時間ではひとつの空間に集合して研究作業をしてもらいますが、各々の主たる研究作業は担当教員の監修のもとで講義時間外におこなっていただきます。
評価方法	成果物(100%)
参考文献	受講者の適性に合わせて指定する。
備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある。

講義科目名称：専門ゼミ五（40850）

授業コード：40850

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. イラストレーション／映像・写真／デジタルアート／メディアアート／サブカルチャーなどの分野の作品研究を通して現代のメディア表現について理解する。 2. 作品研究によって得た知識を元に作品制作を行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	文献講読(A) (映像表現)	
	第3回	ワークショップ(A1)	
	第4回	ワークショップ(A2)	
	第5回	文献講読(B) (イラストレーション)	
	第6回	ワークショップ(B1)	
	第7回	ワークショップ(B2)	
	第8回	文献講読(C) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第9回	ワークショップ(C1)	
	第10回	ワークショップ(C2)	
	第11回	文献講読(D) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第12回	ワークショップ(D1)	
	第13回	ワークショップ(D2)	
	第14回	作品研究論文の構想発表(1)	
	第15回	夏季の課題と習作の構想・計画	
	第16回	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(1)	
	第17回	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(2)	
	第18回	作品研究に関するブックレビュー(1)	
	第19回	作品研究に関するブックレビュー(2)	
	第20回	作品研究論文の構想発表(2)	
	第21回	制作作品の構想発表	
	第22回	文献講読(E) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第23回	ワークショップ(E1)	
	第24回	ワークショップ(E2)	

	第25回	作品研究論文の経過報告(1)
	第26回	制作作品の経過報告(1)
	第27回	作品研究論文の経過報告(2)
	第28回	制作作品の経過報告(2)
	第29回	制作作品の提出と講評
	第30回	卒業制作作品展の準備、作品研究論文の提出
授業概要	<p>卒業研究として研究論文の執筆ならびに作品の制作を行います。映像・イラストレーション作品制作やデジタル音楽制作、あるいはいわゆるサブカルチャー研究を活動範疇とし、研究と制作の両方を実践的に学びます。前期はメディア文化史に関する文献講読、ならびに情報デザインと表現技法についてのワークショップを行います。夏期休業中には各人の興味に応じた課題（写真500枚以上あるいはイラスト50枚以上、その他応相談）ならびに習作の提出を課します。後期には各人の卒業制作作品と研究論文について、定期的に報告発表をもらいながらその最終的な完成を目指します。</p> <p>「メディア文化論」「メディア表現論」「コミュニケーションデザイン論」のうち、少なくとも2科目を既履修であることが望ましいです。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	論文と制作のどちらを主にするかは受講生の志向次第ですが、研究室の機関誌を年数回発行しますので、誌上で批評・習作・エッセイ・レビューなどを恒常的に発表してもらうことになります。	
テキスト	資料プリントを適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品研究に関しては日頃からの作品鑑賞、作品制作に際しては日々の修練が求められます。またワークショップ形式での課題演習や集団制作などを頻繁に取り入れますので、デジタル加工技術の習得、主体性や創造性／想像力は勿論のこと、他の受講生との協調性・協働性も大きく問われます。	
評価方法	作品研究論文50%、制作作品50%（受講生の興味・関心・進路希望等に応じて比率は変動しますが、基本的には研究論文と作品の両方を提出することになります）	
参考文献		
備考		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	問題の発掘と解決・取り組み方について学習する。卒業研究を行うことで研究の心構え、進め方等を習得する。		
授業計画	前期	① 【専門ゼミ】 ガイダンス (a) 前期には商業簿記の勉強会を行う (b) 後期には工業簿記の学習を行う 【卒業研究】 (a) 卒業研究の進め方等の説明 ※以下は個別面談・対応方式で行う（週一回）	前期
	前期	② ～ ⑤ 【専門ゼミ】 商業簿記3級の問題 【卒業研究】 テーマの検討および決定	前期
	前期	⑥ ～ ⑫ 【専門ゼミ】 商業簿記2級の問題 【卒業研究】 調査系の場合（例） ・資料の収集、調査の計画、予備調査の実施、本調査の検討等	前期
	後期	⑬ ～ ⑮ 【専門ゼミ】 簿記検定の対策 【卒業研究】 卒業論文の下書きの作成。	後期
	後期	① 【専門ゼミ】 工業簿記の概要 【卒業研究】 ガイダンス	後期
	後期	② ～ ⑨ 【専門ゼミ】 工業簿記の学習 【卒業研究】 卒業論文の下書きの修正	後期
	後期	⑩ ～ ⑭ 【専門ゼミ】 工業簿記2級の問題 【卒業研究】 卒業論文の添削・点検	後期
	後期	⑮ 【専門ゼミ】 簿記検定の対策 【卒業研究】 論文の完成	後期
授業概要	<p>【専門ゼミ】と【卒業研究】の内容は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【専門ゼミ】（4単位）勉強会。枠組みは「簿記」である。 ●【卒業研究】（2単位）卒業研究テーマを決めて進める。卒業研究は「簿記」「データ分析」の分野に関するテーマで行う。 		
実務経験及び授業の内容			

時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、技術・スキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	適宜プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	上の枠組みとは異なる分野でも構いませんが、事前に相談に来てください。
評価方法	<p>詳細はゼミ紹介のガイダンス時に提示するが、概ね次のように取り組みを評価の対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【専門ゼミ・前期】 商業簿記検定の勉強会：過去問（15回） ●【専門ゼミ・後期】 工業簿記の勉強会：解説（15回） ●【卒業研究】卒業研究の成果物（卒業論文）
参考文献	初回に紹介する。
備考	【専門ゼミ】と【卒業研究】の授業内容は連動しているが、単位は別々に認定する。

講義科目名称：専門ゼミ七（40870）

授業コード：40870

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】情報・地理情報・空間情報に関するテーマに対して、自ら取り組み、考え、解決し、成果を出す。</p> <p>【到達目標】実社会において必要な「与えられた仕事に対して、主体的に取り組み、考え、解決し、結果を出す力」を活用できる。</p>		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	卒業研究のテーマの選定	
	第3回	卒業研究のテーマの選定	
	第4回	卒業研究のテーマの選定	
	第5回	卒業研究のテーマの選定	
	第6回	研究、調査等の遂行	
	第7回	研究、調査等の遂行	
	第8回	研究、調査等の遂行	
	第9回	研究、調査等の遂行	
	第10回	全体報告会① 研究の進捗状況を報告する	
	第11回	研究、調査等の遂行	
	第12回	研究、調査等の遂行	
	第13回	研究、調査等の遂行	
	第14回	研究、調査等の遂行	
	第15回	全体報告会② 研究の進捗状況を報告する	
	第16回	全体報告会③ 研究の進捗状況を報告する	
	第17回	研究、調査等の遂行	
	第18回	研究、調査等の遂行	
	第19回	全体報告会④ 研究の進捗状況を報告する	
	第20回	研究、調査等の遂行	
	第21回	研究、調査等の遂行	
	第22回	全体報告会⑤ 研究の進捗状況を報告する	
	第23回	卒業論文執筆	
	第24回	卒業論文執筆	

	第25回	卒業論文執筆
	第26回	卒業論文執筆
	第27回	卒業論文執筆
	第28回	卒業論文執筆
	第29回	卒業論文執筆
	第30回	卒業論文提出 卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出。提出日時は厳守。
授業概要	情報・地理情報・空間情報を卒業研究のテーマとして取り扱う。各々が設定したテーマに基づいて卒業研究を進めていく。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし専門ゼミ七の運営を行う。	
時間外学習	ゼミで学んだ内容を深く理解するには時間外学習が不可欠である。【事前・事後学修】として文献研究や報告会発表用のスライド資料の作成準備などを自主的に進めておくことはもちろんのこと、ゼミや卒業研究で必要な各種成果物の作成は指定された期日までに取り組み提出することが挙げられる。	
テキスト	必要な資料は適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	卒業研究のテーマに積極的かつ主体的に取り組む必要がある。各自で研究を計画的に進め、卒業研究の進捗状況を定期的に報告してほしい。	
評価方法	進捗状況の報告や全体報告会での報告を40%、卒業研究に関わる成果物など(卒業論文、報告会での報告資料、その他指定された成果物)を60%として評価する。卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出締め切り日時は厳守。	
参考文献		
備考		

講義科目名称：専門ゼミⅧ(40880)

授業コード：40880

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
石崎 毅			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	授業テーマ 学習者としての自立を目指す。 到達目標 卒業論文の作成の過程において、 人と関わる力や自己表現力及び主体性、論理性、計画性を身につけようとする。
授業計画	<p>第1回 研究方法の学習（論文作成の基本とゼミの進め方）</p> <p>第2回 研究方法の学習（論文作成の基本とゼミの進め方）</p> <p>第3回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第4回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第5回 研究計画の方向性の検討（研究したいことを見つけるための対話）</p> <p>第6回 研究内容の吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第7回 研究内容の吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第8回 研究内容の吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第9回 研究内容の吟味（研究計画をよりよいものにするための発表と議論）</p> <p>第10回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第11回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第12回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第13回 研究計画作成と個別指導</p> <p>第14回 研究計画作成と個別指導（研究計画完成の期限）</p> <p>第15回 夏休み前の発表会と意見交換（研究計画の発表会）</p> <p>第16回 夏休み後の発表会と意見交換（研究の進捗状況の発表会）</p> <p>第17回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第18回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第19回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第20回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第21回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第22回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第23回 卒業論文の作成と個別指導</p> <p>第24回 卒業論文の作成と個別指導</p>

	第25回	卒業論文の作成と校正（校正前の論文の完成）
	第26回	卒業論文の作成と校正
	第27回	卒業論文の作成と校正
	第28回	卒業論文の作成と校正（論文の完成）
	第29回	卒業論文の読み合わせと発表会
	第30回	卒業論文の読み合わせと発表会
授業概要	最初に論文を作成するための基本を確認します。その後、前期は研究計画についての一人一人の発表と議論を行い研究テーマを明確にしていきます。後期に入って、個別の助言を経て論文の完成に結びつけていきます。	
実務経験及び授業の内容	小・中学校及び高校での実務経験を生かして、より個性を尊重した授業にできればと考えています。	
時間外学習	授業はよりよい論文作りの議論が主となります。よって、実際の論文作成は時間外で行うことや、論文作成に必要な時間は少なくないことを理解してください。	
テキスト	必要に応じて資料を配付します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	論文作成に当たっては、まず最初に自分の学びたいことや知りたいこと、他者に伝えたいことを明確にすることが大切です。そのことが意欲を高め、最終的に納得のいく論文の完成につながります。また、仲間と意見し合うことが研究テーマを明確にする側面もあります。ゼミの中でわからないことを相談し合うことのできる雰囲気を大切にしたいと思います。	
評価方法	課題解決への主体性及び協働性及び発表と議論の内容（60%） 卒業論文の内容（40%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称：専門ゼミ九（40890）

授業コード：40890

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業研究（論文）の作成に必要な知識やスキルを身に付ける。		
授業計画	第1回	研究の進め方	
	第2回	研究の進め方	
	第3回	研究の進め方	
	第4回	文献検索の方法	
	第5回	文献講読	
	第6回	文献講読	
	第7回	文献講読	
	第8回	文献講読	
	第9回	文献講読	
	第10回	文献講読	
	第11回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第12回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第13回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第14回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第15回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第16回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第17回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第18回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第19回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第20回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第21回	論文作成	
	第22回	論文作成	
	第23回	論文作成	
	第24回	論文作成	
	第25回	論文作成	

	第26回	論文作成
	第27回	論文作成
	第28回	論文作成
	第29回	論文作成
	第30回	論文作成
授業概要	スポーツの競技力向上や健康増進のための方法について、動作分析や実験を通して明らかにしていく。前期中に文献収集を通してテーマを決め、実験（または調査）、分析まで行う。後期は執筆作業を中心に進める。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	指定した文献や興味のある学術論文を探して読む。	
テキスト	各自のテーマに即した文献や資料を指示します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	スポーツや健康について興味があり、科学的な視点から追求してみたい学生を歓迎します。	
評価方法	卒業研究論文（70%）、授業への参加度（30%）	
参考文献		
備考		